平成 21 年第2回まんのう町議会定例会会議録(第2号)

平成21年6月23日 開 議 午前9時30分

日程第 1	末武議長	<p>おはようございます。</p> <p>久元豊議員より、欠席の届出がありましたので、ご報告します。ただ今の出席議員は19名であります。定足数に達しておりますので、ただちに本日の会議を開きます。</p> <p>日程に入るに先立ちまして、議会報告をいたします。</p>
	久留嶋局長	<p>事務局長、久留嶋一之君。</p> <p>ご報告申し上げます。建設経済常任委員長から、会議規則第77条の規定に基づく、付託審査 結果報告書を受理いたしました。次に各常任委員長及び議会運営委員長から、会議規則第75条の規定に基づく閉会中の継続調査申出書を受理いたしました。以上で報告を終わります。</p>
	末武議長	<p>議会報告を終わります。</p>
	三好議会 運営委員長	<p>日程第1 本日の議事日程等について、議会運営委員会の報告を願います。議会運営委員長 三好勝利君。</p> <p>議会運営委員会の、ご報告を申し上げます。</p> <p>6月23日午前9時00分より、第1委員会室におきまして、町長、副町長、総務課長、議長、同席のもとに、議会運営委員会の委員、6名が出席いたしまして、6月23日本会議の運営について慎重に審議しました、その結果をご報告いたします。</p> <p>それでは、お手元に、配布されております、議事日程第2号について、ご説明を申し上げます。</p>
		<p>日程第1 議会運営委員会報告 議会運営委員長</p>
		<p>日程第2 会議録署名議員の指名</p>
		<p>日程第3 付託案件の委員長報告 建設経済常任委員長</p>
	<p>日程第4 議案第3号 まんのう町 道路線の認定について</p>	
	<p>日程第5 議案第4号 まんのう町 道路線の変更について</p>	
	<p>日程第6 議案第5号 まんのう町 道路線の廃止について</p>	
	<p>日程第7 一般質問</p>	

<p>三好議会 運営委員長</p> <p>末武議長</p> <p>日程第 2</p>	<p>日程第 8 閉会中の継続調査について</p> <p>以上の日程で、意見の一致を見、9時5分、委員会を閉会いたしました。</p> <p>以上で、議会運営委員会の、報告を終わります。</p> <p>議会運営委員会の委員長報告を終わります。ただ今の、委員長報告に対する質疑はありませんか。</p> <p>(なし)</p> <p>質疑なしと認めます。</p> <p>これをもって質疑を終了いたします。</p> <p>日程第 2 会議録署名議員の指名を行います。</p> <p>会議録署名議員は、会議規則第 119 条の規定により、議長において</p> <p>3 番 本屋敷崇君</p> <p>4 番 白川年男君</p> <p>を指名いたします</p>
<p>日程第 3</p> <p>大西豊建設 経済常任 委員長</p>	<p>日程第 3 付託案件の委員長報告の件を議題といたします。</p> <p>建設経済常任委員会の、付託案件について委員長の報告を求めます。建設経済常任委員長 大西 豊君。</p> <p>建設経済常任委員会の委員長報告を申し上げます。</p> <p>昨日、6月22日、第1委員会室におきまして、委員7名と、議長同席し、執行部より町長、副町長、総務課長、所管課長出席のもと、建設経済常任委員会を開催いたしました。</p> <p>6月定例会本会議におきまして、当委員会に付託されました、案件は、議案第3号、議案第4号、議案第5号の3案件であり、現地調査を行い、本会議に引き続き、執行部より詳細説明があり、審査しました。</p> <p>議案第3号、まんのう町道路線の認定については、委員より、幅員4mは確保されているが、クランク部分について道路構造例に、あうような線形になるよう、努力をしてほしいとの要望がありました。</p> <p>また、議案第4号、まんのう町道路線の変更について、議案第5号、まんのう町道路線の廃止については、委員より、変更後、また、廃止後の農道としての改良計画については、十分検討されてのことと思うが、少ない費用で最大限の効果がでるよう、効率的な事業、ほ場整備の推進について要望がありました。</p>

大西豊建設 経済常任 委員長	付託されました案件につき、慎重に審査を行い、次のとおり決定しましたので会議規則第77条の規定により、その結果を報告いたします。
	議案第3号 まんのう町道路線の認定について 全会一致で可
	議案第4号 まんのう町道路線の変更について 全会一致で可
	議案第5号 まんのう町道路線の廃止について 全会一致で可
	とすることで意見の一致を見ました。
	以上が付託案件審査の報告です。 委員会を午後3時20分閉会いたしました。
	以上で建設経済常任委員会の委員長報告を終わります。
末武議長	これをもって、建設経済常任委員会の付託案件に関する、委員長報告を終わります。 ただ今の委員長報告に対する質疑にはいりません。 質疑はありませんか。 加地禎君。
加地議員	昨日に続きまして、今日色々、建設経済の委員長の取り計らいによりまして色々審議いたしました、その結果を今報告いただいたわけですが、ちょっと委員長にお尋ねいたしますけれども、議案第3号について4mの幅員は確保しておるけれども、あと云々ということが十分聞き取れませんでしたので、それについて、再度ご質問させていただきます。ご説明をお願いいたします。
末武議長	大西豊君。
大西豊建設 経済常任 委員長	実際、現場を見ていただいたらわかると思うんですが、クランク部分があるので町道認定には4mということで合致はしとるんですが、将来に向けてそういう委員からの希望があり、委員長報告とさせていただきます。
末武議長	加地禎君。
加地議員	これにつきましては、私の足元でございますので、あえてご質問をいたしておりますけれども、この経過につきましては小野課長ご説明していただいとんでしょうかな。十分に。この経緯については四条の幼稚園を誘致するとき、その時の係わりがあるんです。町道になる事態が遅れとんです。四条幼稚園をあそこへ誘致する田岡町政の時に三浦助役と私も色々配慮いたしましたんですが、最初、あそこは四条の幼稚園の通園道路として町道認定をお願いせないかなんだんです。それでここを四条の幼稚園の通園道路として町が認めて町道でないけれどもしておったんです。色々、病院の関係で問題がおきたから、その地主のお施主さんの方から色々

<p>加地議員</p>	<p>クレームがついて、今ご承知のように北側へ駐在所の移転をし、家の立ち退きもし、そして北側へ幼稚園専用の通園道路として設置した。それをする前には、ここが町道でなくてはならないのに、満濃、四条幼稚園というのをあそこに建設したんです。その時にこれ町道として、その時に町が認可しておらなかったんです。せんとして私有地を通して幼稚園へ何年間かよったんです。問題がおきたんです。問題いいでしょうか。</p> <p>(議長、委員長質問に止めてよ。)(委員長にいよんで。)</p> <p>松葉杖で病院にきよる人が、幼稚園の朝、送り迎えのお母さんの車に接触したんです。そういう経路があるんです。それをあえて自分の資産を投げ打って町へ寄付して町道認定をお願いしておる。そういう経緯、それで、これ行き止まりでないんです。あそこから将来、南へ抜く鱈池から福家へ抜く5mの道を抜く計画を地元がしよんです。それにはこの町道というのが必要なんです。そういうことで遅れながらに色々ご無理を申しあげ、今回、色々配慮していただいて町道認定をいただいたようでございますけれども、そういう経緯を知っていただきたい、その旨です。委員長そういうことです。以上です。</p>
<p>末武議長</p>	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>他に質疑ありませんか。</p> <p>藤田昌大君。</p>
<p>藤田議員</p>	<p>9番 藤田ですが、町道ですね、認定と改廃でありますので、新しい認定についてはですね、色々委員長報告の中で将来的なことも言われましたんで、それでいいだろうということでもありますけれども、廃止の部分ですよ、例えばこの八幡の分については、これ行き止まりで今後の分がないということで廃止にするのかなあという想定がつくんでありますけれども、これ町道大下線ですか、これものすごく長い廃止になるんですよ、あとの維持管理が生じた場合にどうなっているか、そういった話、そして、また、地元対応ですね、今後するのか、既に終わったのか。それ、委員長にお尋ねしたいんでお尋ねします。</p>
<p>末武議長 大西豊建設 経済常任 委員長</p>	<p>大西豊君。</p> <p>藤田議員にお答えいたします。土地改良事業の中で道路を整備していくということで、町道を廃止して、土地改良事業をしやすくするための廃止でありますので、地元の方々の要望によって将来、道を通り抜けいうんか、県道に繋ぐという計画のもとでの廃止です。</p>
<p>末武議長</p>	<p>他にありませんか。</p> <p>本屋敷崇君。</p>
<p>本屋敷議員</p>	<p>昨日の建経を傍聴もしておりませんし、過去の経緯を知らないものとして質問させていただくのが、ちょっとどうかと思うこ</p>

	<p>本屋敷議員</p> <p>末武議長</p> <p>大西豊建経 委員長</p> <p>末武議長</p>	<p>ですが、議案第3号のまんのう町の道路線の認定についてですが、地図を見る限り、とても私有地に近い道であって、また、今、さきほど加地議員さんからお話があったように過去の経緯から、幼稚園の方に抜く道は出来ているという中でこれからの財政を考えた時にですね、私有地に近い道を管理することが維持経費が発生していくことですし、ぐるっとする道路を作るということも今の現状から必要なかどうかということにちょっと疑問がありますので、そのあたりを建経としてどのように話をされたのかだけ、お聞かせいただければと思います。</p> <p>大西豊君。</p> <p>本屋敷議員の質問にお答えいたします。基本的には、町道認定また幼稚園等があり、巡回道路として投資効果が十分に上がるということで現地の調査をして判断をいたしました。</p> <p>他に質疑ありませんか。</p> <p>(なし)</p> <p>質疑なしと認めます。</p> <p>これをもって、質疑を終了いたします。</p>
<p>日程第4</p>		<p>日程第4 議案第3号 まんのう町道路線の認定についてを議題といたします。</p> <p>これより、討論にはいります。</p> <p>討論はありませんか。</p> <p>(なし)</p> <p>討論なしと認めます。</p> <p>これをもって討論を終了いたします。</p> <p>これより、議案第3号 まんのう町道路線の認定についてを採決いたします。</p> <p>本案に対する委員長の報告は、可決であります。</p> <p>本案は、委員長の報告のとおり、決することにご異議ありませんか。</p> <p>(なし)</p> <p>異議なしと認めます。</p> <p>よって本案は、原案のとおり可決されました。</p>
<p>日程第5</p>		<p>日程第5 議案第4号 まんのう町道路線の変更についてを議題といたします。</p>

<p>末武議長 大西豊議員</p>	<p>15番 大西豊君。</p> <p>只今、発言の許可を頂きましたので一般質問を行います。</p> <p>振り返って見ますと、平成18年3月20日、町民の大きな期待の中、又、非常に厳しい財政事情の中で、行財政改革の手段として三町合併が行われ、新生まんのう町が誕生し3年と3ヶ月が過ぎましたが、厳しい財政事情の中、合併特例債を取り崩しながら、町政運営を行っています。三町合併の目的をもう一度原点に戻り再確認し、また、県下八市九町の中で自主財源が一番低く財政力も二番目に弱い町であることを認識し、効率の良い町政運営を行うこと、人件費抑制、事務事業の再編・整理・廃止・統合し、課を減らす事が改革の近道であることを念頭に置きながら、新しいまんのう町の財政力に伴った行財政改革を推進するため、議会議員としての本来の役目であるチェック機能を果たすために、まんのう町改革プラン・まんのう町総合計画に沿って事務評価が適正に評価され改革が行われているかどうか、事例をあげて一般質問などを通じて提案して参りますので、適切な答弁を頂きますようお願い申し上げます、質問に入ります。</p> <p>質問事項 1. 分別収集について</p> <p>2. 中学校・小学校スクールバス及び児童送迎専用、保育所幼児送迎用バスの運行状況について</p> <p>3. 公の施設で公社以外の民間企業に対する土地等の貸付け物件について</p> <p>質問いたします。</p> <p>1. 分別収集について</p> <p>善通寺市における分別収集では、平成19年度のリサイクル総収集量3,129トン、リサイクル収益3,100万円、リサイクル処分費166万円、差引2,938万円のプラスで、キログラムあたりの単価は9.92円で、地元還元金は2,944万円です。また、平成20年度のリサイクル総収集量2,556トン、リサイクル収益3,681万円、リサイクル処分費179万円、差引3,501万円のプラスで、キログラムあたりの単価は14.4円で、地元還元金は3,522万円です。</p> <p>一方我がまんのう町における分別収集では、平成19年度のリサイクル総収集量880トン、リサイクル収益436万円、リサイクル処分費539万円、差引103万円のマイナスで、キログラムあたりの単価は4.95円です。また、平成20年度のリサイクル総収集量857トン、リサイクル収益794万円、リサイクル処分費352万円、差引441万円のプラスで、キログラムあたりの単価は9.26円です。</p> <p>なぜこのようにリサイクル単価が大きく異なるのか原因の究明を行い、費用対効果も重視した効率のよい事業展開を行う必要があると思いますが、改善策を検討しているのでしょうか。また、改善策によって得た収益を善通寺市のように地元還元金を出す予</p>
-----------------------	---

	大西豊議員	<p>定があるのかどうか、お伺いします。</p> <p>分別収集の平成20年度事務評価はAランクでありましたが、評価するに当たっては、総合的に費用対効果も近隣の市町のデータを参考にしておれば、このような評価に甘んじず、問題点が早期に発見でき、適切な改善策を講じることができ、地元還元も果たすことができたのではないのでしょうか。この点をどのようにお考えでしょうか、お伺いいたします。</p> <p>2. 中学校・小学校スクールバス、及び児童送迎専用、保育所幼児送迎用バスの運行状況について</p> <p>現状はどのように運用されているのでしょうか、具体的にご回答ください。</p> <p>また、合併後3年が経過し、全地域を公平な立場で見たとき、問題点及び改善策は議論されているのでしょうか。</p> <p>3. 公の施設で公社以外の民間企業に対する土地等の貸付け物件について</p> <p>平成21年度予算の中に町有地の貸付け収入621万1千円計上されておりますが、これは主として宅地ではないかと思われませんが、企業別の貸付け面積及び平面あたりの貸付け単価、年数及びどのような目的で貸付けされているのか、また、契約通りに、貸付け利用されているのか、現在の契約貸付物件すべてについてお伺いいたします。以上、質問を終わります。</p>
	末武議長 栗田町長	<p>町長 栗田隆義君。</p> <p>大西豊議員の質問にお答えをいたします。1点目の分別収集につきましては、まんのう町の19年度と20年度の総収量に対しての1kgあたりの単価の違いについてのご質問ですが、年度ごとの単価は単にリサイクル収益金を総収量で除してでもものではございません。何故かと申しますと、例えば平成19年度の総収集量が約880トンですが、これは収益になるもの、また、収益にならないものが処分費も要しないもの、また、処分費を要するものの合計でありまして収益になるものの収集量が増えて処分費を要するものの収集量が減れば収益がプラスに転じ、反対に収益になるものが減り処分費を要するものが増えればその分だけマイナスに転じることとなりますから、当然年度によって差異が生じることとなります。平成20年度の資源ごみのリサイクルで約440万円の収益となっておりますが、収益となった一つの要因といたしましては高炉メーカー、電炉メーカー、いずれもが鉄、スクラップに対し強い購意欲をみせ、こうしたおおせいな需要から鉄、スクラップ価格の大幅な上昇等々、あいまって資源ごみリサイクルのアルミ缶、スチール缶などが高騰した結果によるものであると思われま。また、善通寺市と比較されておりますが、リサイクル事業は各自自治体が最善と考える方法で独自に取り組んでおり、統一されたものではございません。従って回収品目や取引先も異なっており、また、取引先が同じであっても品質のよしあしや製品が細かく分類されて梱包されているか等によっても違ってまいります。自治体によって収集量の多いところは輸送コストはかからず、少ないところは輸送コストがかかるために品目ごとの単価が変わることとなります。また、処分費を要するごみの量等数々の要因により変動するものであります。善通寺市はリ</p>

<p>栗田町長</p>	<p>サイクル施設 ミラクルパーク を設けており、処分費用で一番の負担となる廃プラスチックの分別と梱包をここでしておりますことと、処分費に要する費用がかからないことと、リサイクル品目の中では高額で取引されるアルミ缶やスチール缶の収集量が多いのではないかと思います。</p> <p>まんのう町では、19年度に多額の処分費を要したことにつきまして処分費を必要とするペットボトル、紙類等の見直しを行い、ペットボトルにつきましては、19年度に1kg、18円の処分費が必要であったもの、20年度には1kg、8円の収益に、新聞紙等の古紙は19年度、1kg、0円であったものを20年度からは4円から5円の収益を上げることが出来ました。廃プラスチックにつきましては、設備などが無いことから今後も費用が発生することになりますが、資源の節約、環境保全の観点から鑑みても燃やせるごみとして処分するのではなく、処分費を要してでも再資源化を図っていく必要があるのではないかと考えております。</p> <p>また、地元還元金を出す予定があるのかとのご質問でございますが、本町のごみ分別収集事業が一般家庭から排出されるごみをそのまま処分せずに空き缶や古紙、その他リサイクルの可能なものを分別し、可燃、不燃ごみの減量化と再資源化を推進するものであります。まんのう町では中讃地区の最終処分場を引受けておりますが、分別をすることにより施設の延命を図ることや環境汚染につながるような電気製品や蛍光灯、乾電池などの有害物質を含むものは最終処分場で処分するのではなく、再資源化により資源の節約、地球温暖化防止などの地球環境の保全に効果のある取り組みを行っております。先ほども申しましたようにごみ収集は一体の事業と考えて業務を行っておりまして、資源ごみについては収益になるものと損益になるものがございますが、収益になるものだけを収集するのではなく環境汚染につながるものは最終処分場で処分せずにお金を払ってでも再資源化を図る必要があるのではと考えております。また、燃やせるごみの減量化を図るために電気式生ごみ処理機、生ごみ処理容器の購入補助や燃やせるごみの収集箱、資源ごみ収集施設整備に要する費用の補助金制度も含めてトータルで事業を行っております。自治会に対する還元につきましては合併前においても、旧3町とも実施しておりませんでした。合併後においても収益が得られなかったこともあり、行っておりませんが、今後につきましては資源ごみ収集事業のあり方を再検討してまいりましてその結果として、安定した収益が得られるようになれば考えていきたいと考えております。</p> <p>次に分別収集の平成20年度事務事業評価につきましては、町として分別収集の必要性、妥当性、有効性、効率性を判断して評価したものでございます。ご指摘のとおり近隣市町の先進的な事例もございまして、参考にしながらまんのう町として、どこまで改善できるか、検討していきたいと考えておりますのでよろしくお願いをいたします。</p> <p>次に、質問のありました公有財産等の使用許可及び貸付につきましては、多岐にわたっており37項目ほど、ございますので一覧表にしてお渡しをしておりますので、また、目を通していただいておりますので、また、目を通していただいておりますので、よろしくお願い</p>
-------------	--

<p>栗田町長 未武議長 北山教育長</p>	<p>いたします。</p> <p>教育長 北山正道君。</p> <p>大西豊議員の中学校・小学校スクールバス、及び児童送迎専用、保育所幼児送迎用バスの運行状況についてお答え申し上げます。</p> <p>現在、町内のスクールバスの運行は、満濃中学校において1路線、塩入公民館前から春日 増田商店北、本目 橋本薫宅北、新目集出荷場、黒川 鉄橋下、追上公民館を経由し満濃中学校まで、朝行き1便、帰りは授業終了後と部活動終了後の2便で運行しております。現在29名が利用しております。また、仲南小学校では、塩入公民館前、春日 増田商店北、本目 橋本薫宅北、堀切交差点を経由し、仲南小学校へ行く塩入線、山脇屯所前から新目収集荷場、大口 松下勝宅北、追上公民館を経由し、仲南小学校へ行く山脇線、それから、佐文交差点から宮田平石、買田 丸点倉庫前を経由し仲南小学校までの佐文線の3路線で朝1便、帰りは低学年と高学年の2便を運行し、合計113名の児童が利用しております。また、琴南小学校では毎水曜日の帰りに路線バスの便のない下福家バス停、川奥バス停まで、町ワゴン車を1便運行しております。また、琴南保育所では通園バスを朝1便、帰り1便運行し、2家族が利用しております。いずれも学校等の統合により遠距離通学となった子供たちの安全、安心を確保するために運行しておりますが、今後、園児、児童、生徒の通学の実態、また、子供たちの健康づくりのバランス等を考慮いたしまして検討してまいりたいと考えております。</p>
<p>未武議長 大西豊議員</p>	<p>大西豊君。</p> <p>まず、分別収集について再質問を行います。今、町長の方からきちんとやっとする。今後、検討したいということですけど、私が1番に指摘したいことは、これだけ差額があるということは知らないことが問題だと思うんですよ。他の市町村ではプラスであるということ。私、昭和62年の8月に旧の満濃町の議員さしていただいて62年の12月と平成2年の12月、この問題について私も善通寺のリサイクルセンターへ行って当時の所長さんから教わったことは、分ければ資源であるけど、混ぜればごみであるということを教わりました。それで、もう一つは小学校の情操教育の中で副読本としてごみの問題についてきちんと、おそらく今も教育の中で副読本をもって教育されとると思います。それでもう一つは善通寺市の場合は全国的に資源ごみの分別収集の模範自治体であります。新聞にも何回も何回も登場しましたが、よく言われることは市長自ら先頭にたって汗を流して職員が率先して行ったから、この分別収集は成功したと当時の所長さんがもうされました。私も、ちょうど1期目の時に栗田町長も同じ、覚えておるかどうかわかりませんが、私も昭和62年12月身近な問題ですという中でコンポストの半額助成とか、平成2年の12月、私いまだに持っておりますが、こういう後援会報告の中でちゃんとごみの分別収集について取り上げてきております。それと先ほど併合をしておそらく分別収集でボランティア的に率先して携わってきた人は、1番に不思議に思ったことは併合をしてこういう方式でやってで</p>

	大西豊議員	<p>も単価は下がらない。あえてその地区はいいませんが当時の担当課長がきちっとそういうことを言いました。しかし、旧満濃町におきましては、善通寺市を見本として、手本としてモデル地区の指定をしてそういう分別収集に取り組んできました。手間をかけて取り組んできました。そういう中で今3町合併しましたが、仲南地区も琴南地区も我々の地区へも、そういう分別収集、琴平地区もありましたが、まんのう町のモデル地区へ視察もきました。なぜ、合併をしたときに分別収集の仕方を変えたのか。単価は執行者の当時の答えは単価は同じであるということです。そういうお答えでした。いまだに分別収集の先頭にたつてボランティアをされとる方はいまだに不信感をもっていると思います。今、町長の答弁ではすべてちゃんとやっておると、いうことで今後考えて行きたいということがありましたが、分別収集の仕方によって単価が変わってくるんですよ。去年は中国のオリンピックの関係でスクラップ価格が多くなって収集量は減っておりますけれど単価が相当高くなってきております。分別収集した部分とくず鉄やさんへ行った部分と、それによってごみの減量化が出来ております。それと町長の答弁の中でまんのう町はごみを燃やしてないという答弁がありましたが、廃プラについては本当に燃やしてないんですか。私は聞くところによると言葉が違うけど燃料に使っておる。そういうことも、その点について答弁をいただきたいと思います。それと、今、まんのう地区3地区ありますが、私は特に思うこと、旧満濃町時代に良いことは引き続くべきだと思います。まあ、そういう中で、当時分別収集にあたっては担当職員は巡回をして色々指導してきました。聞くところによると合併後、担当課が指導しなければならないような地区もあるように聞いております。やはり、百聞は一見にしかずということがありますけど、とにかく問題意識を持って、やっぱりそういうことを分別収集、ボランティアを見ることによって問題意識をもって解決するのが、1番近道でないかと思います。こういう中でごみ問題につきましては、今後、町職員が実態調査をしていかに効率のよい分別収集の仕方について調査、研究をされるのかどうか、お伺いします。それと分別収集について町長は燃やしてないといいましたが、廃プラについては本当に燃やしてないのですか。その点についてお伺いします。</p> <p>次に、町長が資料を渡しておるから目を通して下さい。問題意識を持たないことが僕は問題だと思います。この私一般質問にあたり、私は旧の満濃町の地域のことについてはわかっております。例えば、中讃テレビがあそこへ来たんで土地を100数十万で貸したのはしつとります。それ以外の地区においてやはり幹部職員なり職員なり、色々近所の住民の方々が不審に思ったり不公平と思つとるから色々私のそばへも伝わってくることであって、そういうことを問題意識しないことが私は問題であると思います。</p> <p>資料を見て下さいということで、おおまかに37件あります。この中で私1番に思ったのは通常、物件を貸す場合、有効期間を必ず入れるのが取引です。これを見ますと11件もの契約期間が入っていません。私は資料を見てくださいと町長が私にいうのであれば、必要要件をまず、見て、問題意識を持つことが私は大事でないかと思います。次に議長にお願いしたいんですけど、一般</p>
--	-------	--

<p>大西豊議員 末武議長 大西豊議員</p>	<p>質問の通告書はちゃんと読んでくれましたか。</p> <p>はい。</p> <p>町長の答弁で漏れとるところはなかったですか。3回、3回言われてでもあるでしょう。私は本当は、今日もうちょっと読んで終わろうかと思ひよったんですよ。ただあんまりも無責任ですよ。もう合併して3年になるんですよ。沢山のお金をかけてまんのう町の改革プラン、総合計画を総務省の指導によってお金をかけてしている中で、議長、ちょっとしゃんとしてくださいよ。通告書に細かく書いてあるでしょう。例えば、契約どおり貸付されているのですか。見たらわかるんですか。契約期間が入ってないでしょう。契約期間の入ってない分について私は再質問なくして1回目の質問として答弁してもらいますよ。議長、それはどうですか。契約期間のない契約書あるんですか。議長、どう思いますか。</p>
<p>末武議長 大西豊議員</p>	<p>まあ、それはね。</p> <p>対等の立場ですよ。議場いうところは。それと、教育長の方から答弁がありましたけれども、もう3年たつとんですから経過措置でしとる分が沢山あると思いますよ。それは私たちが議会で発言し、指摘するまでもなく改善するのが私は管理職の仕事ですよ。私はそう思いますよ。まず、議長お願いします。1回目の答弁で漏れとる部分について詳しく説明してください。ちゃんと通告書に書いておりますから。</p>
<p>末武議長</p>	<p>議長、十分な答弁が出来るまで休憩してくださいよ。 (通告しとんのにできんのはおかしい。)</p> <p>議場の時計で10時30分まで休憩いたします。 (休憩 10時16分)</p>
<p>末武議長</p>	<p>休憩を戻して会議を再開いたします。 (再開 10時30分)</p> <p>ただ今、資料を詮索中のございまして、お手元の時計で10時45分まで休憩いたします。 (議長な、通告を出してそれでわからん言われたら、これ、審議ができません。通告出していないんやったらしょうがないで。通告出しとってわからん、わからん言われたら、これ、どなんするんな。)</p>
<p>北山教育長</p>	<p>休憩を戻して再開いたします。</p> <p>北山教育長。</p> <p>大西豊議員の再質問にお答えします。ご存知のとおり、まんのう町の遠距離通学に対する補助でございますが、18年3月20日の条例では、中学生は通学距離が4kmを超えるものについて補助をいたしております。通学方法としてもっばら定期バス及び</p>

北山教育長	<p>スクールバスを利用する場合は、その者の通学距離が片道 5 km を超えるものについては全額を補助する。通学方法としてもつばら自転車を利用する場合には、片道 4 km 以上の者に対して 5 千円、5 km 以上の者が 1 万円、6 km 以上が 1 万 2 千円、片道 7 km を超える者に対して 1 万 4 千円の補助をいたしております。なお、小学校につきましても、通学距離が片道 2 km を超える者については、算出しておりますが、まず、定期バスとか、スクールバスを利用する場合は全額補助をいたしております。通学方法としてもつばら徒歩による場合、徒歩及び自転車による通学距離が片道 2 km を超えるものについては、年額 3 千円を交付しています。これはバス利用に係わらず、すべて町内の小学生、中学生に適用いたしております。なお、あの近県の遠距離通学の補助の状況を調べてみますと、やはり距離につきましても、遠距離の規定がまちまちのようでございます。あるところでは 3 km、あるところでは 4 km、6 km、国の現在、統合等によってバスを運行している場合の補助の基準がこのようになっております。小学校の場合が 4 km 以上、中学校の場合が 6 km 以上の場合には国がその必要とした費用の 2 分の 1 を補助する。そういった形で地方交付税の方に盛り込まれているようでございます。そういったことも考えまして今後、教育委員会といたしましては子供たちの安全・安心の確保を第 1 に考えながら、今後、保護者、地域の理解を求めながら検討を進めてまいりたいと思っております。</p>
末武議長	栗田隆義君。
栗田町長	<p>大西豊議員さんの再質問にお答えいたします。分別収集についてでございますが、大西議員さんご指摘のようにお隣の善通寺市につきましても、早くからごみの分別収集に取り組んで、全国的にもモデルになるようなすばらしい先進地でございます。まんのう町といたしましても今後、分別収集の状況等も十分調査をして町民の皆様方に喜んでいただけるような方法に努力をしてみたいと考えております。また、子供達への環境教育についても今後とも進めてまいりたいと考えております。また、なお、廃プラスチックにつきましても、まんのう町では燃えるごみとしては廃プラスチックは扱っておりません。ということで業者の方にその廃プラスチックを引き取っていただいて、業者の方で助燃剤等で有効活用をしておるというふう聞いておりますので、どうぞよろしく願いいたします。</p>
末武議長	<p>公の施設の分はにおいて、この分別収集と中学校の分でご質問は。 大西豊君。</p>
大西豊議員	<p>分別収集については、今、栗田町長から答弁がありましたけれども、本当に合併をした時に分別収集については率先して分別収集にボランティアとして参加している方は、声を大にして担当課の方へ本当にこの分別収集の仕方のレベルを下げても、単価は下がらないかということ声を大にしていっとるにも係わらず、それは単価が変わらないということの答弁でありました。やはり、旧の満濃町におきましても実態をきちんと把握しとりました。そういうことで先ほども言いましたけれども、今後、担当課として</p>

大西豊議員	<p>その分別収集の地域間の格差があると思います。まんのう町の中でも。そういうことの実態調査、今、町長が首をかしげよりましたけれども、担当課の方に確認します。昨年度において分別収集の仕方について問題があつて指導しにいた地域があると思いますので、あるかないか、担当課の方から答弁をいただきたいと思います。私も議員になってずっと、そういうことに関心があつて参加させてもろとるわけですが、今、シルバー人材センターの方へ委託をされております。やはり、みんなの声が町へ届かんいよるわけですよ。やり方が。例えばですよ。担当課承知かどうかお聞きしますが、新聞紙と旧の満濃町時代は新聞紙と広告を分けとったわけですよ。単価が同じいうことで1つにしました。そういう中でボランティアの方が言っておることは、調味料、調味料の中でお隣の町で製造しておるプラスチック容器は紙でしております。それと大手メーカーも1社紙で張っております。ラベルを。それをいちいち除けなければ分別収集にはなりません。レベルいうんか単価が下がります。そういうことについても現場で指導的な立場の人が問題提起をしとります。しかし、反映されないといわれております。また、シルバー人材センターの運転手の方ももの凄く地域によって差があるから、これはやはり考えてもらわなければならないということを何回も聞いております。私も前担当者にもそういうことはいったことがあります。ただ、返ってくることは単価が同じ。私はそれは認識不足と思いますよ。もう今日議会が終わったら、すぐ普通寺のミラクルセンターへ行って来てくださいよ。副読本もありますよ。それと普通寺市の職員でも一緒や。新聞にもよく登場しますが市役所へ持って行ったごみは、家庭に持って帰りなさいいうことを徹底しとりますよ。私も今までその分別収集については、やはり各課においてもきちんとしなさいよいうことで発言したことがあります。やっぱりそういう現場を見て、先進地はもう県外いかなくても普通寺が全国的に本当にすばらしいシステムを導入しておりますので、終わったらすぐでもいって報告をいただきたいと思います。分別収集の問題については、そういうラベルそんなんについては、上部団体に対して紙の包装は止めて下さいとか、そういう指摘をしたことがあるのかないのかをお聞きすると共に今後は、そういうボランティアの方の声を取り上げるのかどうか。それと先進地への視察をしていただけるのかどうか。また、現場のそういう分別収集のあり方について調査・研究をされるのかどうか。お伺いします。</p> <p>それと、先ほど教育長の方から国の方の指針についてふれましたけど、やはり経過措置をいつまでも置くのではなくして私もこの問題につきましては、旧の満濃だけではわからないんですよ。やはり、それぞれの地域の方が、これではいけないのではないかとということで私の元へ問題提起をされるわけですよ。こういうことはないと思いますけど、色々、マンガのような話もお伺いします。もう、それ以上はいいませんが。やはり、通学バスにしてでも誰がその走行距離を把握されとんかかどうか。そういうことも学校任せでなくして、住民の方が、もし疑問に思っておるのであれば公平な立場でやっぱり審査すべきやと思います。調査すべきであります。</p>
-------	---

	大西豊議員	<p>それと私は車の問題につきまして、基本的には3町合併したのは行財政改革の中でやったわけですが、特に統廃合できる分、課によっては車の量を減らしたところもありますけど、まだ車の数は129台だったと思います。やはり、お金がいくらでもあるんやったら住民の言うとおりに、また、旧合併前の時代の通りしたらいいと思いますけど限られた予算の中でやはり経過措置を見直す、調査、研究する私は意義があるんじゃないかと思しますので、再度そういうことについても調査、研究されるのかどうか、お伺いをいたします。</p>
	末武議長 三宅住民生活課長	<p>住民生活課 三宅茂君。</p> <p>大西豊議員の再々質問にお答えをいたします。実態調査をしたかどうかということでございますが、従来よりですね、一部の地域において分別収集の種類の中にですね、町からお配りしとります表のとおり出来てないという地区があるということで、お聞きいたしましてですね、それで今年5月に何箇所か行ってですね、その資源ごみの収集の時刻にまいりまして、一応、住民の方ですね、こいな方法でおやりくださいということをお願いなり指導はしております。それとボトルですね、ラベルを貼っているのを除けるような指導をしたかということでございますが、ボトルはですね、ペットボトルとプラボトルありましてペットボトルの場合についてはですね、一応、紙のラベルはついてないということで認識しております。プラボトルにつきましてはですね、醤油、調味料の関係のボトルなんですけど、それにつきましては紙のラベルがついている。紙のラベルにつきましては除けてくださいと、これはあくまでも廃プラの中の中ですね、収集の品目になっておりますので紙ラベルを除けていただいて、廃プラとして扱っていただくということで、それもですね、今回、現地の方に行った時をお願いをしております。それから、分別収集ですね、仕分け方の違いで色々単価等も違って来るわけでございますけども、アルミ缶、スチール缶につきましてはですね、一応、皆さん方が出していたいただいた缶をプレスしてですね、ある一定の大きさにいたしまして出荷といいますか、売っておるわけでございます。その中に一部でもですね、粗悪品があればですね、せっかくきれいに洗っていただいておりますものが、品物が悪いということで単価が落ちてきますので、その辺もですね、今後について住民の方をお願いをしていかなければいけないと思っております。廃プラの中ですね、今、現在は、従来はですね、廃プラにつきましては、細かく分別してですね、例えば発泡トレイとか、アイスクリームの容器とか、普通のお菓子類の分を以前は分別をしておったようでございますけども、せっかく分別をしていただいてもですね、収集して集めてきますとですね、中を見てもみますと全然違うものはいってあったりすることです、それにまた、分別をする施設なり労力等が発生するということですので、今は、ナイロン、ビニール、プラスチック等につきましてはですね、一括で廃プラという形で処理をさせていただいております。これにつきましてはですね、全部を燃やすのではなくてですね、形のあるものリサイクルできるものについては、そういった形で仕分けをします。どうしても形にならないものについては、燃料としてですね、</p>

<p>三宅住民生活課長</p>	<p>処分をしていくということで、そういった処理の仕方をしております。今後におきましては、分別収集の内容も合わせましてですね、あり方を再検討してですね、努力して行きたいと思っております。先進地はですね、私も早速、見に行つて参考にしていきたいと思つておりますのでよろしくお願いしたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。</p>
<p>末武議長 北山教育長</p>	<p>教育長 北山正道君。</p>
<p>末武議長 栗田総務課長</p>	<p>大西議員のご質問にお答えします。通学距離につきましては学校長から私たち教育委員の担当の方へ通学距離等の調査で補助してほしいという申請がまいります、昨年度末ですが、私方担当も地図等を確認した折に十分条例に規定された距離があるのかなあ、どうかなあという疑念を感じまして学校と連絡を取り合ひまして、やはり、安全な最短距離等を計算した場合に条例に規定した距離に少し足りないのではないかというふうな事例がございました。それにつきましては、平成21年度は辞退をしていただきました。今後ともそういった形の通学距離の測定とか、判定につきましては慎重をきわめてまいりたいと思つております。</p>
<p>末武議長 栗田総務課長</p>	<p>総務課長 栗田昭彦君。</p> <p>大西豊議員さんのご質問についてお答え申し上げます。初めに資料が不十分でありましたこととお詫び申し上げます。お渡しいたしております資料の中で、貸付の期限の終期が空欄になっている部分につきましては、2枚目のタカガワ新琴南ゴルフに貸付しております物件以外すべて平成22年3月31日が終期でございます。なお、タカガワ新琴南ゴルフクラブの終期につきましては少し時間をいただければご報告させていただきます。よろしくお願い致します。</p>
<p>末武議長 栗田総務課長</p>	<p>もう一つ、契約どおり貸付が利用されておるか。</p> <p>契約どおり貸付が利用されておるかというご質問でございますが、37項目でございます。全てが契約どおり貸し付けているかという部分につきましては、すべて精査をいたしておりませんので今後精査をさせていただきたいというふうに考えております。</p>
<p>末武議長 大西豊議員</p>	<p>大西豊君。</p> <p>先ほどの分別収集のところで1つだけ付け加えておきます。例えば費用がかかる、かかる、いわんと担当課としては経営努力をすべきであります。たとえばですよ、蛍光灯管であれば、たぶん、おそらく収集したらお金がかかっつると思ふんですよ。通常であれば資源ごみを見たら、みんなは本当にお金になると思つてるわけですよ。たとえば購入したところへ持っていけば無料で回収してくれるわけですよ。トレイも同じですよ。近くのマルナカでも持っていけば回収してくれるわけですよ。私はそういう努力、企業努力をしないで、私は住民の方は、住民の方はお金になると思つてんですよ。旧の満濃町時代にはそういうことをだいがアピールもしつたし、先ほど町長の方から還元金がなかつたといよりましたけど、旧の満濃町時代には確かでないけど還元したことがあるように私は記憶しております。特にそういう問題について僕は議員になつたときからずっと携わつてきつたので、や</p>

大西豊議員	<p>っぱり経営努力、やはり電球とか、廃プラとか、トレイとかは、この近くであればマルナカさん行ってもちょうんと取ってくれます。町はお金があるのであればそういうことも住民に周知することが私は経営努力やと思いますので、そういうことも今後は十分に検討していただき、そういうボランティアの率先になっておる方の意見をくみ上げていただきたいと思います。そうすることによって少しでも善通寺市のように近づくとしますので今後について期待をしております。</p> <p>それと総務課長の答弁ですけど、合併して3年もなるのに公有財産の有効活用を町長も何度も答弁に答えております。わからんでは、先ほどのことですけど、あえて名前をいいません。議員が指摘しとる件もあるでないですか。具体的に。本会議でいったんかいうこと聞いたらいってないけど。それで、知らないいうことは僕おかしいと思いますよ。議長。知らないいうことはおかしいと思います。それは、物を貸すのに相手が何に使いよるかどうかわからんのに貸すいうことは、私はおかしいですよ。公有財産ですのにやはり、公平な立場で情報公開もして地域住民の福祉、労働の場を提供するのが公の財産であります。その答弁では私は納得できません。</p>
末武議長 佐野副町長	<p>副町長 佐野利昭君。</p> <p>大西議員さんから公共施設の貸借についての質問でございますが、総務課長も申されておりましたけど実態調査はやっていないのが事実でございます。ただ、現況としては当初契約のとおり、その大小に係わらず目的にそったような使用はされておるといふうに我々は認識をいたしております。</p>
末武議長 大西豊議員	<p>大西豊君。</p> <p>今のことは議事録に残ると思いますし、私だけがいつとる問題、現に知らないのは町長と副町長だけかもわからん。それ以外の方みんな知っていることを承知いただきたいと思います。私はもうちょっと、もう少し議場というものは言論の府であり、対等の立場の場であると思います。私はそういうことを今まで信じて発言してまいりました。私利私欲にとらわれずやはり公平な立場で私はおそらくほとんどの議員おかしいと思いますよ。もし、今の答弁が最善であれば私は将来のまんのう町は僕はないと思いますよ。</p>
末武議長 佐野副町長	<p>佐野利昭君。</p> <p>大西議員さんからの再質問でございますが、私と町長のみがわからないということございまして、具体的におっしゃっていただいて我々も対処いたしますので、我々が知る範囲、先ほども申し上げましたようにその用途について大小はあるかもわかりませんが、用途目的にそった契約の中で運営されておると信じておりますのでよろしくお願ひいたしたいと思ひます。</p>
末武議長	<p>以上で15番 大西豊君の発言は終わりました。</p>

<p>末武議長 川原議員</p>	<p>引き続き、一般質問の通告がありますので、これを許可いたします。16番 川原茂行君。</p> <p>まず初めに、まんのう町が、発足して3年数ヶ月が経過し来年は一つの大きな節目であります選挙が行われようとしています、最初の選挙のような選挙区は制度が終了し、定数減により1選挙区のもとに執行されるわけであります。合併後、今日まで合併の大きなスローガンでありました合併してよかったといえるまちづくりができたかどうか、そして、そうした思いを実感できた施策の実現が図られたかどうか、執行部、議会も検証あるいは総括し住民に堂々と報告する義務があるのではないかと思う次第であります。私はこの1期目は旧3町のそれぞれの継続事務事業が主となり、新しいまんのう町としての独自のものが後回しになっているのではないかと思う次第であります。やむを得ない部分もあると思いますが、やはり住民の方々は大きな飛躍発展を期待していたのではないのでしょうか。私はせめて今後この1年は新しいまんのう町として住民の皆様に見える形で、こういう事務や事業を起こしました。そして、住民の皆様方にも協力してください。胸をはって報告できる任期最後の年に是非していかなければならないと強く思う次第であります。また、おりしも経済情勢は世界同時不況という100年に一度の大きな打撃を受ける状況となりました。そしてわが国では、大小を問わず企業等の倒産や不況、これによる雇用に不安定化をもたらすという極めて深刻な状況となっております。こうした状況を打開するため国においても大型補正予算を通じ種々施策が講じられてまいりましたが、反面、これらが果たして効果的に消化できたのかどうか懸念もされております。一方、地方公共団体の大きな責務は、これらの制度を有効に活用し仕事を作ることにあると思います。その町の産業に合わせた事業等の導入により町の基幹産業の発展による町の活性化と雇用の促進が緊要の、そして最大の課題であると思います。こうした状況の中で本町にとって緊要の課題は、懸案のほ場整備を一日も早く導入し、全町あげて農業の効率化、省力化による農業経営の安定化や農業後継者の育成を図らなければならないと思う次第であります。ほ場整備が図られていないところでは若い後継者が農地を半分にするとか、手放したいというような声も聞くようになりました。また、一方ではこの事業の導入によりこれまでの農村部におけるまちづくりの主役でありました建設業界の活性化と雇用の促進という大きな今日の目的の合わせて図られるものと確信をいたしております。また、これらの事業等により関連事業の交通網の整備により町の利便性の一層の向上により、新しい産業の進展等が将来的には望めるものではないのでしょうか。町長の事業の取組み方における決意をお聞かせ願いたいと思います。ご承知のようにほ場整備は最初から関係者全員賛成のもと実施されることはほとんどなく7割そこそこの方の賛成者があれば上出来であります。この方々のためにも大きな補助金を受けられるよう推進するのは町の大きな責務であり、反対者がいるからといって推進が遅れることのないように、この場で強く要望しておきたいと思います。また、地元対策を地元任せに任せるばかりでなく利害関係の生じるものについては、必ず町と共々に調整するよう合わせてお願いいたします。そして町長の決意は全職員に周知、徹底を図り実現するよう努力されたいと思います。決意の程をお願い申</p>
----------------------	---

	川原議員	<p>上げます。</p> <p>2番目の質問といたしまして、先般、本県における人口状況が発表されておりました。県の人口は、懸念されておりましたように100万人を切りました。本町も合併当初、もっと人口増を図り町の活性化ということが一つの大きな目標であったと思いますが、ご承知のとおり、2万人を割りました。今の状態でまいりますとよほどの社会変化が起きない限り、減少になることは明白であります。一方、お隣の丸亀市、町の大きくない宇多津町は増加しております。これからはやはり、町の特徴を生かす施策、しかも他町にない独自の施策を通じ人々に魅力あるまちづくりを早急に立ち上げる必要があると思います。このことは一つは合併の大きな目標でもあったと思います。しかし、最近では目の前のものに追われ、ややもするとこうした当初の大きな目標が遅れがちになっているのではないのでしょうか。そこでお尋ねいたしますが、今後における人口増に町独自の施策等はどのようなお考えをもっておられるのか、ご答弁をお願い申し上げます。この2点についてご質問を申し上げます。</p>
	末武議長 栗田町長	<p>町長 栗田隆義君。</p> <p>川原議員さんのご質問にお答えいたします。</p> <p>満濃地区における今年度のほ場整備事業の取り組み計画はどうなっているのか。というご質問でございます。その中のまず1点周知等推進計画及び県営事業と団体営事業の受益者負担についてでございます。</p> <p>土地改良事業の周知等につきましては、町政懇談会や土地改良区の総代会、広報などで説明をいたしており、要望、問い合わせ等があれば直接、事業説明にお伺いするようにいたしております。今後も機会あるごとにご説明して行きたいと考えております。</p> <p>ほ場整備事業の受益者負担については、県営中山間総合整備の生産基盤事業で、老朽ため池改修とともに補助残の3分の1の5%です。また、県営ほ場整備の経営体育成基盤整備事業では国と県で80%の補助をいただけますので、町と地元を合わせた負担は20%となり、その3分の1の7%程度が地元負担となります。また、団体営の中山間整備は75%、農山漁村活性化プロジェクト事業で実施する場合65%の補助がいただけますので、補助残の2分の1ということでそれぞれ12.5%と17.5%の受益者負担となっております。</p> <p>次に、町の体制と受益者における推進協議会等の設立についてどう考えているのかというご質問でございます。</p> <p>ほ場整備事業につきましては、ご存じのとおり満濃地区が遅れている状態は理解をいたしております。町の体制としては本庁2名と各支所1名がお世話をさせていただいております。推進協議会設立については現在のところ考えておりませんが、中山間整備事業の2期整備募集に合わせて対象外地区も含めて更なる広報活動等を推進し、少しでも検討いただける地区には積極的にご説明にお伺いしていく所存でございますので、議員の皆様方におかれましても地域の声をお聞かせいただければ幸いです。</p>

	栗田町長	<p>次に、人口減少対策についてでございます。</p> <p>まあ、1つの方法としては企業誘致があげられますが、そのためには水問題が不可欠であり、町の対策はどうかということでございます。議員さんから平成20年9月定例会において質問されましたように町を活性化するためには、まず若者が定住しやすい環境づくりが最も大切だと思っております。そのためには将来にわたって安定的な水利用が急務であります。これはわが町のみならず香川県全体の問題だと思っております。しかし、水資源を確保するためには様々な立場からの協力が必要であり意見を集約していかなければならないと思っております。その前提で議員さんご指摘の水資源確保に関する推進協議会の設立であります。この目的達成のために関係する担当者の意思統一が必要だと思われまますので担当者会議を早い段階で開催し、最善の方法を取りまとめ国、県、町議会、農業団体と関係機関を含め推進協議会が設立できるよう努力をしております。また、議員さんがご指摘されておりますように水不足が県全体の問題として、県民のためにわが町に出来る施設を再検討していただき従来計画しておりました多目的ダムの再開発にも着手してもらえようように強く要望してまいる所存でありますのでよろしくお願い申し上げます。</p>
	末武議長 川原議員	<p>川原茂行君。</p> <p>16番 私もこの議会の中で町長にお伺いする、そして町長さんにお答えいただいた。私も日頃担当課長なり、そこそこの方に色々なことを聞いて、私は町長さんの決意をこの場でこの神聖な議場の中でお聞きしておるんです。だから、県営のほ場整備であるんだったら何パーセントとか、そういうのは私は存じております。町長さんのほ場整備にかかる意気込みをこの場でお聞きしたかったわけです。その点をまずはお願い申し上げておきます。と申しますのは、今、町長さん推進協議会、ほ場整備を推進していこうという協議会、それは今作るつもりはないとこういうご答弁でございました。別段、私は推進協議会をする前にやるべきものがあると思います。それはただ今、いわれましたような県営事業でやるのであれば20ヘクタール以上、そして50%が国費、30%が県費、残りの20%の3分の2は町が持ちますと、だから3分の1が個人負担ですと。こういう周知をですね、まずは町民のできてない方にお知らせする方法、これをいかにするかと、ここなんです。町長さんがどうしてもやろうとするのであれば担当課長、町長が指示をして判断したらいいんです。やったらいいんか悪いんかと、仕事は課長以下がやるわけですから、町長が中々右やら左やらわからんのでは課長中々ふんぎりつきにくい。だからほ場整備をやろうというのであれば指示をしたらいいんです。まずは、できてない。私はほとんどのが、旧満濃地区であろうことをさしておると思います。ほ場整備未整備のところで、ほ場整備の件についてお願いしよるわけですから、未整備のこの方にごうやってこういう周知方法を早くしていくか。そして地元から言うてくれば出向いていってじゃなくて、周知方法をしに出向いていったらどうですかと。私は先ほど9月議会といわれましたが9月議会のそのようなことを私も議事録を持っておりますからわかっております。出向いていって、こういう方法でやれば</p>

	川原議員	<p>7%弱でいけますよと。というようなことをね、是非、周知する方法、それを私まず町長がやる気であれば課長にやれと、いうたらいいですよ。町長さんがいちいち出向いていってというと、そりゃ町長さん体一つですから中々そうはいきません。それぞれの担当の方が行って地元からいうてきたら、それからじわじわゆっくり行こうかなじゃなくて、こういう形でやったらどうですかと、いう周知をまずはしなきゃいけない。その中から、どっかから手が上がるかもわかりません。問題は町長さんの判断と職員一同の熱意です。町長さんに熱意がなければ職員に熱意がないのが当然ですから、まずは町長さんの熱意それにつれて当然、課長以下はやっぱり熱意を持って住民の方に接していく。この姿勢がほ場整備をする上に1番大事なことなんです。そら、初めから100%賛成してくればいいですけども、これは中々いきません。いかんと思います。だから、それは根気よく、やっぱり将来のまんのうはこうです。いうことを訴えていかないかんです。農業やるのであればこうなんですと。やっぱり訴えていかないかなんだら、これ中々100%のそこはいきません。だから、そういう周知方法、まずは私はお聞きしたいのは町長さんがほ場整備にかける熱意をお聞きしたいのです。その県営でやるとか、補助率がなんぼというのは私は調べて存じておりますから、あれですが。町長さんに熱意があれば当然、職員の方も熱意をもって対応してくだらうからその点を再度お聞かせいただきたい。是非、町長さんに課長以下、推進協議会は今やる気はないといわれましたが、それはまた、あとからどうしてもやるようになれば当然、推進協議会たるものも作っていかねばいけないうけども最初からそこまでは私は申しませんが、そういう未整備のそこへの周知方法、町長さんのほ場整備にかける熱意これをまずお聞かせいただきたい。</p> <p>それから、2点目の人口減については、まあ、私もこの9月の議事録を持って用意しておるんですが、町長さんの方から先に、9月議会でいわれましたが全くそのとおりでございます。これは香川県知事さんがですね、やっぱり香川県のことを思い町長さんがまんのう町のことを思う。同じ考えだと思います。けどもここでですね、気になることが9月議会に私も述べましたが、企業が入ってこなきゃ中々働く場所がないんですね。知事さんも年頭のあいさつの中で、まずは香川県に若い方が定住してください。都会へいっておる若い方がユーターンして下さい。そして都会との交流をもって香川県はいいところです。というようなことで香川県との交流をもって、香川県に都会の方を呼んできて下さい。こうすれば香川県は発展するんですと。全く答えはその通りなんです。まんのう町もその通りなんです。けども、今、町長さんの言われたように働く場所がないと。これはやっぱり水なんです。水がなければ優秀な企業は来てくれません。まして、今日こういう不況の中で中々投資してくる企業はめったにございませんが、優秀な企業が来ていただかなければいけません。優秀なる企業を誘致するのであれば、まずは1番水なんです。その水もきれいな水でなかったら、そこらのただ水だけだというだけでは中々難しい。私は工業用水だけの問題じゃないと思います。その工業用水だから、いいかげんな水でいいというんじゃないで、やはりきれいな水を確保していくことができなければ中々優秀な企業は</p>
--	------	--

川原議員	<p>来ていただけない。企業が来ていただければ中々働く場所がないから、やっぱり若者が出て行くと。こういうことになるので、この点、水の問題、町長さんその原点をわかっているから、問題は町長、まんのう町のトップなんで町長の判断でまんのう町どんよんでもなるんですよこれは。あなたが判断間違ごうたら、まんのう町合併してやっぱりいかなんだのと。こうなるんです。町長の判断が間違わなければ合併してよかったです。こうなるんですから。全て町長の壮健にかかっていると私は思っておりますのでこの熱意、決意を再度お伺いたします。</p>
末武議長	<p>町長 栗田隆義君。</p>
栗田町長	<p>川原議員さんの再質問にお答えいたします。まず、ほ場整備の取り組みについての熱意ということでございますが、ほ場整備につきましては、旧の満濃地区が特に遅れているというようなことをご指摘がございました。見渡して見ますと、そういうような状況でなかろうかなというふうに思っておりますが、また、四条、高篠地区は平野部ということもありまして、中山間地域にも含まれておりません。まあ、そういったことで、なお、ほ場整備が遅れているのが現状でなかろうかなというふうに思います。このほ場整備の取り組みについては、先ほども申し上げましたように地区懇談会でも、各自治会長さん並びに副会長さん等にも色々説明をさせていただきましたし、土地改良の総代会におきましても説明をさせていただきました、また、広報等でも説明をしております。まあ、そういったことで、それぞれの地区でやってみようという地区がありましたら、いつでも町の方へ申し出ていただければ町の方で説明なり現場を見せていただけて色々指示もしていきたい。このように考えておるところでございます。まず、土地改良事業でございますので、やはり、それぞれの地区からほ場整備をやろうという気運がおこってこなければ中々非常に難しいと思えますし、特に高篠、四条地区はほとんど段差もなく畦畔が全てコンクリートに出来ておるところがほとんどでございます。まあ、そういったことで今回の道路認定でもございましたが、そういった道路が拡幅を計画しているところ、また、新しく道路をつけようというようなところにおきましても、ほ場整備をやれば水路とか道路の問題が一举に解決するというところで、ほ場整備をしてはどうかというような話は、関係者の人に具体的にしておりますが中々大勢の方の同意があるということでございまして、それが実現していないのが状況でございます。多分に考えますのには、今まではほ場整備が出来るところはかなりの部分出来てきたかなと、あと残っているのが色んな面で難しいところが残っているのかなというふうに思っておりますが、こういった面につきましても粘り強く地域の人に説明をして、出来る限りほ場整備に取り組んでもらえるような努力をしていきたいと考えております。</p> <p>また、2点目につきましてはの人口減少対策につきましては、まんのう町のみならず日本全国今から人口減少地域にはいっております。香川県では既に人口が減少するというような下方の方にまいておるわけでありまして。まあ、そういった中でこのまんのう</p>

	栗田町長	<p>町で多くの若者に定住していただくというのは、やはり企業誘致と働く場所が必要であるというのはご指摘のとおりでありますし、私もそのように思っております。是非、工場誘致もして行きたい。土地はたくさんございますし、このたびの情報基盤整備事業で光ファイバー網もまんのう町中張り巡らしております。まあ、そういったことで条件はかなり整ってきておりますが、やはり、水の問題がそこで問題になってこようかと思えます。川原議員さんご指摘のように香川県では、このまんのう地区が1番ダム等の建設については有利な土地柄であるということは十分承知しております。香川県でも、まあ、そういったことで数年前に香川県全域の調査をいたしております。そういった調査をした結果、計画をいたしておりました前の川ダムとか多治川ダム、こういったダムは、やはり香川県内においてはまんのう町にダムを作るのは非常に優位なと言いますか、色んな面において有利な面があるということで県の方、国の方でも計画をされて準備を進めてきた調査もしてきたような状況でございますが、昨今の色んな経済事情でそれが中断されておると言いますか、凍結されておるような状況でございますので調査、研究もしておるような状況の中でありますので、こういったダムにつきましても今一度考え直していただき、また、再開出来るように折りあるたびに声を上げて県、国の方に訴えてまいりたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。</p>
	末武議長	川原茂行君。
	川原議員	<p>16番 まず、ほ場整備の件ですが、自治会長会、土地改良会でそういう話はお願いしておると。で、興味をもったところから説明に行くと。私はそれは町長さんとそこがちょっと食い違ごうとんですね。私の考えは。それじゃ、やっぱり、個人の負担、国の補助、県の補助、町の持分出す分、個人の最終的な1番興味があるのは、関心をもっとるの、忘れないだろうと思うのは個人のあなたが出す負担率はこんだけですと。国、県、町が出すのを忘れても個人の分は覚えておるんですよ。そういう話を出来ますか。皆さんにわかってもらえるような方法をどうやってしますかと。それじゃ、どこそこの地区は誰それにお話をしてほ場整備の話で是非説明をさしてもらいたいんだけども集めてもらえんですかと。こういうのをほうぼうにずっと平等に未整備のとは平等にやっていますね、うちは何日に集まるからという話であれば行きますよと。ただの自治会長とかそういう方々だけに言うんじゃないかってもっとそういう突っ込んだ話をしといて、説明せななんだからこれわからんのですからね。私が聞く範囲やっぱり自己負担金はなんぼいるんやと。まあ、金はわからんけどパーセントはわかりますよと。これはもう事業費がわからんですから金額はちょっとわかりかねるけども、自己負担率はわかるわけですからね。それはやっぱり行ってそれをみんなに周知、わかっていただけの方法を先とらなんたら、これ中々うち来て話してくださいという話にはならない。私ね、つい担当課長さんともお話ししたら、それ行って話できませんかといったら、いや、百数十箇所いかないかんのにそれ中々いかんぞ。百数十箇所それまあ自治会単位でしょうけど、まあ、百何箇所あるか、私、十分、自治会存じ上げておらんのです、私の不勉強で申し訳ないんですが、いずれにしろ、その地域</p>

川原議員	<p> に行って話をするお考えはないですか。これ、町長さんが出向いて行って話をしてくださいというでない。これ、町長さんがやれというて行けというたら担当課がそれなりの考え対応はするんです。また、せなきゃいけない。だから、そこらが私、担当課も動きにくいところもあるのかなと私なり判断するんですが、町長さん担当のものに、ほ場整備のもうちょっとみんなにわかるような説明をしてこいと。今、言っていただけますか、どうでしょう。この点お聞きいたします。将来の本当にまんのう町の農業施策の根幹になるのがほ場整備です。私、生活道をね、止めると、そういう話はしてないんです。けども、生活道をつける横のまあ、こら、テクニク的な問題もございまして、色々手法的な問題があつて建経にも付託された、だから、私もその時に申し上げておるから私、だいたい町長さんお聞きいただいております、どう考えてみてもね、町長さん日頃言われる最少の財源で最大の効果を出す。これはほ場整備が基本になりますよ。たとえ、生活道をつけるにせよ、何にせよ、ほ場整備をすれば生活道はつくわけですから。これ1番最少の財源で最大の効果がでます。私はそう信じています。町長さん日頃もうそういうことをね、口にされておる。また、そうでなきゃいけない。財政こんだけひつ迫したまんのう町に取って税金を湯水のごとく使うようじゃ、いかんのですから、まあ、使えといっても中々ないけども、だからその反動が他の事業にやっぱりくるんですね、やっぱり事業するのにそれはほ場整備やるよりもっと町が持ち出しの高いものをやるから、他の事業にその反動がくるんです。だから、日頃言われる町長さんが最少の財源で最大の効果を出すと言うのであれば私はほ場整備をするのが1番根幹になろうかなとこう思っております。 </p> <p> 町長さんが、是非、担当課にもっと詳しく周知せよと、報告して来いと、そういう熱意を再度お聞かせいただきたい。さっきの答弁の中にはそういうやりたいとこがあれば出向いていくでないんです。出向いて行って聞いてこいとこういう姿勢が私は町長にほしい、こういうことを申し上げておるわけです。 </p> <p> 2点目の人口減については、もう答えは町長さんも私も一致しておるわけです。水がなければ企業はこない。水をどうするかと、こういうことです。昨日の特別委員会の水資源対策委員会にも報告いたしております。このとおりであります。まず、まんのう町は森林が多いと。これだけの気候変動が出ているのにあまりにも早明浦ダムに依存しすぎておる。香川県の自己水源を確保していただきたい。それには急峻な香川県においてはためる場所も必要であると、そういう候補地がまんのう町には何箇所もある。陳情、要望等を文面をもってお願いしていただきたい。これは昨日いったところですから、そうそうはいきませんが、その前に9月の議会にでも、これは町長さん覚えていただいております、水資源特別委員会とそういう推進協議会ですね、並びに要望書、陳情書どうするか十分検討していきたいと。これもこの中で9月議会、9月議会答えとんですね、水資源対策特別委員会もございまして十分相談さしていただいて前向きに考えて行きたい。このように思っております。て、こう町長さんおっしゃっておられる。おっしゃっておられるんだったらね、9月から今日まで来ておる。これ20年度の9月議会です。だいぶん時間がたっておるんです。 </p>
------	---

	川原議員	<p>3月議会でないんです。昨年の9月議会にこうおっしゃっている。それだったらね、やっぱり十分検討委員会の話も煮詰めていく。まんのう町に、このダムの候補地はあるというのを、いうわけであって私がいうとんのは香川県の自己水源をこしらえたらいかがですかと、そういう候補地がまんのう地区にはございますよとこういよるわけですから。まんのう町が要望、陳情がでてきたから、じゃ、地元負担金の金はまんのう町1番ようけだせよという話じゃないんです。まんのうとか丸亀がよけ出せよとか、そういう話じゃないんです。香川県の自己水源をこしらえる候補地がまんのう地区にはございますよと、こういよるわけですから私は早急にこれはやるべきである。これ今、梅雨にはいっておりますが今年だってこれもう早明浦ダムがなかったら、香川県の水はないと。どこの県の方もそう思っておるんですね、やっぱり香川県が自己水源を確保する。当然、まんのう町は地元ですから地元の水は自分で確保しなきゃいけない。まんのうの水があんだけ汚れてきたら中々あれを浄化せというても難しい。そら、時と時間がかかります。あれを浄化するのに。だからやっぱり香川県の急峻な3時間ぐらい県境で降った雨が3時間もあれば瀬戸内海に入るんですよ。よその遠くの方のね、2、3日前に降った雨が下の河川で遊びよってしたら出てきたがというような何千キロもあるような河川じゃないん、20kmぐらいしかないんですから。まあ、土器川にせよ、金倉川にせよ、財田川にせよね、短いですから。県境に降った雨がもう3、4時間あれば瀬戸内にはいるんです。だから、溜めるものがどうしてもいる。それ、やっぱり香川県として考えてもらう候補地をまんのうにありますよということを、やっぱりまんのうから発信すべき。そういうことによって、やっぱり1番きれいな水があるところへ企業誘致が、企業誘致っていうんでなくて企業さんが目をつけてくる。まんのうへ行ったんが1番水がきれいかな、環境もいいだろう。これはやっぱり根本的に考えていくべきでないかと。私はこう思っています。企業誘致、若い方が定住してもらうにはそれしかないんです。もう、農業をやるか、企業誘致をしてそこで働くか、でないと都会へ行ってしまう。行った方は帰ってこない。これでまんのうを活性化せ、活力あるまんのうを作れといっても中々難しい。今、この時期に課せられた我々の責務なんです。是非、町長さんお願いいたします。最後ですのでスカッとしたご答弁をいただきたい。是非、1点目は課長に指示を出していただきたい。2点目は県の方へ要望、陳情等を文面をもって出しましょうという決意をお願いできればありがたい、こう思っております。よろしくお願いいたします。</p>
	末武議長 栗田町長	<p>町長 栗田隆義君。</p> <p>川原議員さんの再質問にお答えをいたします。ほ場整備の今後の推進につきましては、先ほども申しましたように各自治会、町政懇談会また土地改良区の総代会等々、その土地改良に関係しております皆さん方にまず説明をさせていただいて、具体的に地元の負担金は何パーセントいるというようなことを申しまして中々、実際、町長さんなんぼぐらいいるんなというようなこともあろうと思いますから、具体的に山間部、高低差が多いところでは反にこれぐらい地元負担金がいりますよと、また、平地では過去</p>

<p>栗田町長</p>	<p>の例から見ますと実際これぐらいの負担金がいりますというような具体的な金額も提示をしてそれぞれの皆さん方に説明をしていきたいなと思っております。しかしながら、まんのう町も非常にひろうございます。もう既にほ場整備が出来ておるところ、出来ておらないところもございます。どうして出来てないかというのは色々条件等が違いますし、その農業に取り組む農業者の考え方も色々差異がございます。まんのう町全域ひとくぐりにして、これを推し進めるといことは非常に難しいと思っておりますので今後とも粘り強くそれぞれの地域の人に説明をしていきたいなとこのように思っております。</p> <p>また、水資源の問題でございますが、やはり、若者の定住促進には企業誘致が必要である。企業誘致には水が必要である。これもおっしゃるとおり十分わかっております。また、香川県の中では急峻な川が多いということでもありますので、川原議員さんおっしゃるとおり少し雨が降れば2～3時間には瀬戸内海へ流れていくと。非常に急峻な川がおおございます。そういった点からもダムを作っていかなければならないわけではありますが、やはり、急峻なだけにダムを作るコストが非常にかかります。高くつくわけでもあります。トンあたりの工事費が非常に高くつくということで中々それが今、進んでいない状況ではありますが、金額云々よりはどうしても水を確保しなければいけないということでございますので、やはり、国、県の力を借りてそれを進めていく必要があろうと思っておりますし、この香川県においてはダムの適地といえますか非常にダムを作るのに県内では良い場所というのは先の県の調査でも十分まんのう町にもその場所があるということは県も認識をしてございます。そういったことで多治川ダム、前の川ダムを調査研究まで進めておったわけではありますが、昨今の財政事情でこれが中断をしておるわけでもあります。私も年に1回ではあります香川県の町村会で県の方へ、また、県議会の方へ要望にまいっております。その時も香川県で水資源の確保、ダムの確保、環境森林税の創設等も文章ではっきり明記して県議会、また、県執行部の方へも毎年のように要望しておりますので今後とも努力をしてみたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。</p> <p style="text-align: right;">(加地議員退席 11時42分)</p>
<p>末武議長 小亀議員</p>	<p>引き続き、一般質問の通告がありますので、これを許可いたします。2番 小亀重喜君。</p> <p>議席番号2番 小亀重喜です。議長より発言の許可をいただきましたので通告書のとおり、一般質問を行わせていただきます。正午が近づいてまいっておりますので、まきながら話たいと思います。今回、私は、住民に見える行革、業務改善の取り組みというテーマで 町長並びに執行部の考えをお伺い致したいと思っております。</p> <p>前段的なお話となりますが、昨年の6月議会の一般質問でも触れさせて頂いた町政懇談会について。本年も先月下旬から今月上旬にわたり 町内各地区で開催されたわけですが、私、7箇所のうち6箇所の会場に出向き、末席にて会の模様を拝見させて頂きました。懇談会を通して感じましたのは、回数を経るごとに住民の皆さんからのご意見・ご要望が 地域に密着したより明確な内</p>

<p>小亀議員</p>	<p>容へと変ってきたこと。道路・河川等の補修・改修はもとより、防犯・防災・環境衛生面に関わる事項が多数寄せられ、地域生活において実際に生じている不都合、日々感じている具体的な事案が大半を占め、町当局からその場を取り繕うような返答や抽象論・観念論的な回答ではご納得いただけないレベル、状況となってきたということであります。町長はじめ特別職、そして懇談会で一同に会された管理職、各部署責任者の方々は、厳しい財政事情の中、また旧町間での不均衡是正に苦慮されながら、合併からの3年間、住民ニーズに応えるべく奮闘されてきたことと存じます。しかし、懇談会の場においては、あいかわらず合併してよかったことなど何もない。大勢居る職員はいったい何をしているという、庁舎を外から見た住民の厳しい意見は発せられても、庁舎内での職員の奮闘を讃えるメッセージを耳にすることは、残念ながら極めて少なかったように思います。</p> <p>では、行政サービスの質的向上や効率化、職員の能力、パフォーマンスを高めるために、町長は、町長はじめ理事者首脳陣は手をこまねているのか、決してそうではないのでしょうか。先般、誇らしいニュースも耳にしました。ニューパブリックマネジメントの視点からの事務事業評価と目標管理というタイトルで、我が町の取り組みが 総務省における地方行政改革、事務事業の再編・整理、廃止・統合に関わる先進事例として、僅か全国で8件のうちの一つとして選ばれ、同省のホームページに今なお掲載されています。そしてさっそく、そのニュースを聞きつけられたのでしょうか、大阪は守口市議会のご一行が視察研修においでられ、深く感銘を受けて帰られたとか。しかしながら、我が町の行政組織において、そのように全国でも注目される人事システムが稼動していても、このまんのう町庁舎で仕事をする職員の反応は芳しくありません。また申し上げにくいことですが、定例会に先立って開かれる総務常任委員会、所管事務調査において、行革の取り組み・進捗状況について、当方から催促しないうちに詳細資料を提示されたり、積極的にご説明頂いたことは、哀しいかな、これまで私の記憶にはございません。行政内部での位置付けがそうであるならば、当然、住民へのアピールなど望むべくもありません。先述の総務省ホームページへの掲載をグッドニュースとして住民の皆さんへお伝えしても形だけ整えたところで、極めて冷ややかなレスポンスしか返ってきませんでした。もちろん、このような状況は我が町だけではないのですが、この当りに行政改革の難しさがあると思うのです。</p> <p>まず最初の質問です。以上のように、並々ならぬ労力と組織内での軋轢を伴いながら自らの身体にメスを入れる行政改革、これまで甚大なるエネルギーを投下してきたにも拘らず行革の成果が見えないのはなぜでしょうか。いや正しく言い換えるならば、成果が出ていても、住民サービスの向上や職員のモチベーションアップに直接的に繋がっているという実感が沸かない原因はどこにあるとお考えでしょうか。町長の見解をお聞かせください。考えますに、現在行われている行革とは、まさしくトップダウン型です。それが首長から職員へ向けての指令ならまだしも、国から基礎自治体へ向けた御達しにより、いやいややらされてる感覚を首脳陣も含め大半の行政関係者が抱いているのではないのでしょうか。そして、自分の業務という意識は薄く、行革担当者から流れて</p>
-------------	---

<p>小亀議員</p>	<p>くる書面やフォーマットに文字や数字を埋めさえすればよいと捉えてるスタッフも少なからず見受けられます。また、改革という言葉そのものがマンネリ化し、閉塞感や無気力感すら漂ってるように感じます。そのような雰囲気の中で、高機能なグループウェア、業務管理システム等を導入しても、その本来の目的は共有化されず、ただ現象面としての作業や手間等の負担増という反発意識のみが蔓延する結果になってしまうのだと思います。ここで誤解なきように申しあげたいのですが、私は今回の一般質問を通して、現在取り組んでいる行政改革を止めることを意図しているのではございません。むしろ従前に増しての推進を願うものでありますが、これまで進めてきた行革のメニューでは埋められそうにない部分をどうすべきか。それを問いたいのです。行革によって仕組みを変えることは重要です。しかし、仕組みが変わっても人は中々変わりません。それでは、人、現場の職員を変えるにはどうすればよいのでしょうか。</p> <p>町長へ二つ目の質問を申し上げます。冒頭の町政懇談会を例にとっても、住民は時代の変化に即応した行政サービスを求めています。それには、上流・源流から根こそぎ変わる行政改革への期待も当然含まれています。しかし、昨今の激変の中、悠長に待つて頂ける時間的余裕などありません。住民誰もが役場のカウンター越しに眺めればひと目で分かる仕事の変化、地域に出向いてくれた職員の言葉の端々から如実に現れる変貌ぶり、大きくは変わらずとも、今日から直ちに実感できる小さいながらも着実な変化に住民の皆さんは期待を寄せているのではないのでしょうか。行政改革の流れを止めることなく、併せて、即効性のある業務改善活動の導入こそが、今必要だと考えますが、町長はどのようにお感じでしょうか。ご回答願います。</p> <p>ただ業務改善といえば、民間企業において以前から取り組まれてきたQC活動が連想され、前時代的で、行政改革より稚拙なイメージを抱かれるやもしれません。また、本町において、過去に職員による提案制度のような取り組みを行った由、お聞きしたこともございます。しかし、今申し上げている業務改善活動と過去の制度との差異をご認識の上、その有益性をご理解頂くことを強く望むところであります。まず、行政改革との対抗軸を示すならば、行革のトップダウン型に対し、業務改善活動はボトムアップ型、行革において払拭しきれない現場のやらされ感とは異なる、改善活動における現場の自主性、一元評価・一元管理のため、全部門一律的な取り組みとなりやすい行革とは違い、各部署・各人様々の個の創造性を発揮できるのが業務改善活動であると考えます。また、職員提案制度なるものは、自身の業務ではなく、基本的には他部署への提案であり、いわゆる、いわば言いつぱなし、その提案を取り入れるかどうかは、当該部署の判断に委ねられるケースが多かったのではないのでしょうか。今論じようとしている改善とは、他所から言われたから仕方なくするのではなく、自分達の仕事の生産性を上げるためゆえ、自ら進んで取り組む能動的な活動へと結び付けやすく、実効性の高い取り組みとなることが期待できます。</p> <p>しかし、いくらボトムアップ型、現場の自主性を発揮とはいえ、その改善活動も末端の職員がたった独りで、誰にも知られず取</p>
-------------	---

<p>小亀議員</p>	<p>り組んでも成果が上がるものではありません。業務改善を継続、維持し、さらに発展させるために、組織全体に関わる仕組みや仕掛けが必要だと思うのです。考えてみれば、業務の効率化、顧客サービスの向上を考えるのは、公務員ならずとも仕事人として当然であり、特段、改善制度など設ける必要などあるのか、という疑問も出てくるでしょう。そして制度化されれば、また、改善用紙や報告書の提出などという負担が増えるのではないかというネガティブな予感も生じてきます。確かに、新たな取り組みをはじめれば負荷はかかります。そして、何がしか書面に書き残すという行為も伴います。しかし、漠然と業務改善もいいなど、ぼんやり頭に浮かべるだけでは何も進まないわけです。いつから、誰、どんなメンバーが、如何なる分野で、具体的にどんなアクションを起こそうとしているのか。一斉にではなく、やり易いところから手をつけていく。そしてそれを組織の内外に明示することで、スタートが切れると思うのです。トップダウンという意味ではなく、職員の自発性を引き出すことについて町長のオーソライズ、承認はもちろん必要でしょう。それは、業務改善奨励要綱や改善活動実施要綱といった組織内ルールの提示かもしれませんし、改善奨励金や表彰制度等を設け、よりモチベーションを高める工夫として現れるのかもしれませんが。現場の自主性が途絶えないよう、組織の長としての支援サポートはもちろん必須だと考えます。</p> <p>これまで二つの質問を申し上げたが、何れについても積極的課題解決志向的な御答弁を頂けるものと仮定して、最後の質問をいたします。業務改善 並びに 改善活動を定着・維持し、さらに発展させるために仕掛けや仕組みが必要とお感じにはなりませんでしょうか。そして執行長として、どのような仕掛け・仕組みを創設していくべきとお考えでしょうか。具体的に例示頂ければ幸いです。行政改革がブルドーザーで荒野を切り開いていく行為だとすれば、改善はその跡地を人が歩き、耕し、住めるように細やかに地均ししていく行為に似ている。 そのように表現された研究者も居ます。また、大きな変化、大変な行政改革に対して、小さな変化、小変な業務改善、変化は小さくても少しの労力で実施可能な取り組みといった論説を耳にしたこともあります。そしてつい最近、名言と感じたのは 改善とは小さな変革。個人サイズの行政改革であるという言葉でした。行政改革と業務改善はとかく対極的に位置づけられることが多いのですが、補完し合い双方が望むところへと階段を上っていく。そしてその頂きは同じだと思うのです。以上、住民に見える行革 業務改善の取り組みと題し、行革の成果が見えない理由、業務改善活動導入の是非、業務改善を定着、発展させる仕掛け・仕組み、この3項目について御質問申し上げました。何卒 誠意ある御答弁のほど宜しくお願いします。</p>
<p>末武議長</p>	<p>ここで答弁は午後にはいたしまして、1時まで休憩といたします。 (休憩 11時55分)</p> <p>(加地議員着席 13時00分)</p>

<p>末武議長</p>	<p>それでは休憩を戻して会議を再開いたします。(再開 13時00分)</p> <p>町長 栗田隆義君。</p>
<p>栗田町長</p>	<p>行革の成果が見えないのはなぜだろうか。成果が出ていても、住民サービスの向上や職員のモチベーションに直接的に繋がっているという実感が湧かない原因はどこにあるとお考えかということでございます。</p> <p>地方財政の危機を背景として、将来の自治体の存続が危ぶまれる状況の中で推進された平成の大合併は、ある意味では大規模な行政改革ととらえてもよいのではと思います。行政改革は国の主導によるもの、たとえば集中改革プランによる事務事業評価、職員の定数管理、給与の適正化、さらには人事評価制度、公会計制度の導入などがあり、自治体共通の項目として取り組まれており、本町においても同様に改革を推進しているところであります。しかし、このような中の多くは、組織内部のものであり職務としては一部の職員に偏りがちであり、短期間で解決できるものではなく、中長期的な目標の上に立つものもあり、また進捗の状況が、住民の皆様には見えにくく、直接住民サービスの向上に結びつくとは言い難いものがございます。このようなことが、議員ご指摘の一因でないかと感じております。いずれにいたしましても、どのような課題や問題も、解決策を見出し実行するのは、町の資源の1つでもある職員でございます。本町は、このような視点で改革を推進しており、平成19年度から平成21年度までを職員一人ひとりの自己啓発の醸成期、平成22年度から平成24年度までを職員が自分自身を省みる内省の変革期、平成25年度以降を組織マネジメント期と計画し、すべての職員の質の向上と意識の改革を図るよう努めてまいります。</p> <p>次、2点目でございます。大きくは変わらずとも今日から直ちに実感できる小さいながらも着実な変化に住民の皆さんは期待を寄せているのではないかと。行政改革の流れを止めることはなく、併せて、即効性のある業務改善運動の導入こそが、今必要だと考えるが、町長はどのようにお感じか。ご回答されたいというご質問でございます。</p> <p>先ほど行政改革は、中長期的なものとお申し上げしましたが、一方では議員ご指摘の、おおきくは変わらずとも直ちに実感できる着実な変化、まさに小さくても住民の皆様が目に見える改革は、住民生活に直結したものであり、重要なものと考えます。それは改革という固いイメージではなく、身近な業務の変化と言う表現が適切かもしれません。現在実施している事務事業評価制度において、職員自らが担当している事務事業の見直しを行っていく中で、このような変化を実現できるプロセスがある程度定着し、効果が発揮できるようになることが今は、重要であると考えます。しかしながら、業務改善運動も多くの自治体で取り入れられており、今後においてはその効果を検証しながら取り組みの検討も必要でないかと感じております。</p> <p>次に3番目の質問でございます。業務改善並びに改善活動を定着・維持し、さらに発展させるために仕掛けや仕組みが必要とお感じにならないか。そして執行長としてどのような仕掛け・仕組みを創設していくべきとお考えか。具体的に例示頂ければ幸いです。</p>

	栗田町長	<p>あるというご質問でございます。</p> <p>先に申し上げましたように、業務改善活動に関する実施については、まず事務事業評価の効果を見てまいりたいと考えております。平成19年度より事務事業評価制度をスタートさせておりますが、この事務事業評価制度の二次評価過程において事務事業担当者自らが評価委員へ説明を行う説明会を2日間、約20の事務事業について行っております。職員自ら説明を行うことは、組織風土や職員の意識改革はもとより、説明能力、分析能力、公共経営能力などのこれからの自治体職員には必要とされる能力を高める効果も合わせ持っており、少なくとも幾つかの効果は表れております。</p> <p>さらに、今後は、職員自ら改善・改革について提案をするような環境づくりも大切であると考えます。たとえば 提案型自己申告制 の導入などが、そのようなものでないかと考えます。職員が事務事業の改善をはじめ、歳入・歳出の改善、職場環境の改善などを提案し、実行可能性があり、より効果の高いと認めるものを採用することで、新しい公共空間の創造を目指す自立した自治体組織への変革が実現できればと考えております。どうぞよろしく願いいたします。</p>
	末武議長 小亀議員	<p>小亀重喜君。</p> <p>すいません。1時間たつていろいろ私も何を聞こうかなと思ったりしたんですが、丁寧なご回答、ご答弁ありがとうございました。あの3つの質問に対して懇切丁寧なご回答であったかと思えます。押しなべて前向きなご答弁をいただいたものと非常に喜んでおります。ただ、その中で2、3、反論をするようなことになるんですが、まず、その行革とその業務改善というのがどうしても違うようにこれまで受け止められてしまってたんですが、先ほど休憩時間中に言ってたんですけど、どこかで絶対一緒になると思うんです。で、かたや全体のイメージとすると行革はちょっと難しいもの、業務改善というのは非常にべたつとした、いわゆる土着性のあるようなものというようなことなんですが、先ほども全国の例を見ながらということをくだりで言われましたけど、これは尼崎でしたかね、かなり進んでいるんですが1番初め業務改善というのをやり始めると、それこそ水道の水をこまめに止めましょう的な非常にまあ学生なり児童でも考えることから始まるらしいんです。でも、それが1年、2年たつに従ってどんどん、ほとんど行革のレベルになるようなものへと高まっておると。いつかは私、最後の文で書いたんですが頂を同じところへ持ってくるということが私は可能だと思うんです。で、左側から来る行革と右側から来る業務改善、それがどっかで一致して体質改善が出来るんじゃないかなあというようなご理解を是非いただきたいなというのがあります。それが1点です。</p> <p>それと本気度の話になるんですが、先ほど川原議員さんの中でも町長の意気込みをと、ということが問われておったんですが、この行革に関しても同様だと思うんです。で、悲しいかな、これまでの例を聞いてみますと成功した業務改善活動を取り組まれて、成功した自治体の大きい共通点というのはやはりチームなんですよね。やはり、少なくともある程度の人数がその組織の中にいま</p>

<p>小亀議員</p>	<p>して、明治維新を捉えるわけじゃないんですが、日本全国で色んな変化を求める人たちがいてたと思うんです。それが一定のレンジを超えた時に初めてうねりとなってくるところがあると思うんですね。今、現在考えてみますと総務課の中に行革の室があると、いわば総務課というのは現状を肯定せざるを得ないセクションだと私は思うんです。その中に現状を打破しなければならない行革推進室があるというところに非常に難しさがあると思うんですね。私、実際に思うのは直轄的に町長から指示が出せるような状態でチーム編成が組めるような行革の舞台に変える必要があるんじゃないかなと。それを是非、町長の方でどうお考えかというのをお聞かせいただきたいなと思います。それと、業務改善活動に取り組むにして、どういったところから取り組んだらいいんだろうかという例として、例え話になるんですがいい意味での例え話ですので是非ヒントにさせていただけたらと思うんですが、まず1点目が、先般、これは新しい課長になってから変わられたんですが、企画政策課の応接セットが前へ出て来てますよね。で、非難があったのかどうか知りませんが、私が聞いたのはいい話なんです。これまではどうも課長の向こうでこそ話をしよったなど。それが手前に置くことで非常にオープンな形で誰でもあそこで用事があたらご無理をいえば、あそこで相談ができるんですねというイメージを聞かれたことがあります。それ非常にいい話だと思います。それからある1点、女性の職員さんだったと思うんですけどエレベーターのところでおばあさんがいました。で、普通でしたら何階ですかまでなんでしょうけど、どこへいかれますか、どんなご用件ですかということで担当課まで案内してくれたという話もありました。結局やっぱり心遣いだと思うんです。改善というのは。どこに、それがいい対応でなければクレームとして上がってきますよね。結局改善の裏側には多分住民視点にたった心遣いがどれだけできるかというところに多分立脚してるんじゃないかなと思います。それからあと何点かあるんですが、この春に人事異動がありまして、今6月議会になっているんですが、人事異動の一番大きい利点というのは何か人を属人的な判断をよくされるんですが、私が思うには例えば、新しい方が入ってこられたら前の職場での仕事の仕方がありましたよね。それが、新しい部門になった時に違う視点でみれる。あれ、前こんなことをやってたけど、こんなやり方していたんですかというところのギャップこそ大事にしてほしいんですよね。あの人は仕事が出来るとか仕事が出来ないということではなくて、ああ、こういうふうな仕事の仕方をしてスリムにしていたんですねということを是非話してほしいいうふうに思うんです。ですから何か属人的な係長さん、あの課長さんとはという話ではなくて、この仕事のやり方、あの仕事のやり方ということで人を1回、属人的な部分を離して仕事のやり方の効率化みたいなことで話あっていただく機会がほしかったなというふうに思います。それからあと1点ぐらいなんですが、先ほども前段で話をさしていただいたんですが、委員会審議がございます。その時に昔よりかは各課長さんの方からお出しいただける資料の方が非常に充実してきたと思います。でもいつも思うのが何かちょっと資料が揃ってないんですよね。で、それが非常に見にくいというふうにクレームの方を申し上げたことがあるんですが、これをまあ、揃えてほしい。いうことをお伝</p>
-------------	--

	小亀議員	<p>えしたこともあります。これはさっき言ってた一種逆転になりまして本来は色んな業務があるはずなんですけど揃えてほしいというのは、何か逆説的なんですけどそこで揃えられないことこそ、これが多分その課の一番大事な部分になると思うんです。揃えられる部分はどんどん揃える。でも、揃えられない部分については大事にするということが改善の大きなヒントになるんじゃないかなと思います。色々言ったんですが、とにかく町長の方にお聞かせいただきたいのは、まず、その本気度ですね。要はチームとして今、某係長さんの方が孤軍奮闘されているような雰囲気を見かけます。もう少し全体として行革と改善と一緒にミックスさせるとしたら多分各セクションにそれなりの人材をピックアップするなり、プロジェクトチーム等々を作って走らさないとこれ動かないと思うんです。そのように町長のご指令のもとでプロジェクト化するような気構えがあるかどうか、いうところを是非お聞かせいただきたいと思います。その1点に絞ってお答えをいただけたらと思いますのでお願いします。</p>
	末武議長 栗田町長	<p>町長 栗田隆義君。</p> <p>小亀議員さんの再質問にお答えいたします。まず、町長、直属といいますか、チーム編成をしてはどうかというご質問でございますが、私も町長になりましてから1番に取り組んでまいりましたのが行財政改革でございます。しかしながら3年終り4年目に入っておるわけですが、議員さんご指摘のように中々目に見えた成果が上がっておりません。まあ、その一つの原因は議員さんご指摘のように総務課に行革担当者がおるというだけでは中々難しいのかなというふうに考えております。できうればいうよりは、やりたいと思っておりますのは、各課横断的な行財政改革チームというのを町の町長の直属ということで、私から直接そのグループに対しては色んな問いかけをするし、色んな調査をしていただけるようなチームを作ってまいりたいと思っております。今、月に1回ですが、定例の課長会を行っております。中々それだけでは難しいというので、この4月からは課長補佐会というのを総務課長が中心になって色々意見を出し合って交換しておるのでありますが、できうれば、その課長補佐級から、この行革のチームのメンバーを選定して作ってまいりたいとこのように思っておりますのでどうぞよろしく願いいたします。</p>
	末武議長 小亀議員	<p>小亀重喜君。</p> <p>どうも心強いご発声やったと思います。ありがとうございます。是非、その心積もりとかご意思が結実するように心から祈っておりますのでよろしく願いします。で、あと1点だけ、これはお願いとかご答弁結構なんですけど、どうしても役所仕事とか官庁の仕事というのは国からの予算、県からの予算等々が絡んでますので予算書に載りましたら、それがミッションになって一種その先には多分法令であったり、目的があるんですけど取組む時には手段が一種目的になってしまっているところがあると思うんですね。ですから、本来でしたら予算を消化することではなくて、この予算を消化した先にこのものが本来は何のために、が必要なんですけど、何となくいつも手段が目的化するというのが常々だと思うんです。これ本当にキャリアのある皆様方、</p>

	小亀議員	<p>課長さん連中を前にして不躰だと思うんですが、とにかく今やってる業務が一旦は四月の初めで結構なんですけど、疑ってほしいと思うんです。このやり方で本当に目的が達せられるんだろうかというようなことが視点にないと、同じような去年のままでのやり方でいいんだということになってしまうと思うんです。とにかく、その年度変わりが節目だと思いますので、はや2ヶ月もたつては、しまってるんですけど本当にこのやり方で1番効率的なんだろう。目的は中々変えられません。でも手段というのは色んなやり方をやっていかに効率的にすればいいと思うんです。で、あと1点、特にあの行革なり改善活動の方でよく言われるのはコストダウンですよ、要は安くできないか、軽くできないか、コストを低く出来ないか言うことなんですけど、中々その人間というのは1回雇われてそれを半分にするなんかいうのは、中々出来るものではございません。その時に何をするかというとコストダウンでなくてバリューアップだと思うんですよ。同じ人間で例えば10のものしか出来なかったのを、そしたら10のものを5人でするのではなくて10を15にする。要は今おるメンバーでもっといろんなことが出来ないのかなと、ということが多分、住民の目からは多分サービス向上にうつるんだと思うんです。ですからコストダウンが無理ならバリューアップということで一緒に考えていただけたらと思います。是非、先ほどの声をしかと覚えましたので前に向いて進んで行きたいと思います。ありがとうございました。以上です。</p>
	末武議長	<p>答弁ええん。</p>
	小亀議員	<p>はい、結構です。</p>
	末武議長	<p>以上で、2番 小亀重喜君の発言は終わりました。</p>
		<p>引き続き、一般質問の通告がありますので、これを許可いたします。19番 谷森哲雄君。</p>
	谷森議員	<p>それでは、ただ今から質問させていただきます。新自由主義が教育の現場での影響についてということで教育長にお尋ねいたします。国政の場で構造改革の名のもと、規制緩和、分権という言葉であらゆる分野、政治、経済、教育、社会福祉、雇用などで新自由主義が語られてきました。自由度が増える、自主、自立という、うたい文句で良いものづくめのようにいわれてきました。</p> <p>しかし、今、特に問題になっておりますのは、雇用形態が終身雇用から、期間雇用、非正規雇用、派遣労働、パートへと変質して行って大きな社会問題になっております。貧困と格差です。このことは今は取り上げませんが、私が危惧するのは聖域であります教育の場に新自由主義政策が組み込まれてきておることです。教育、保育の民間委託や民営化が言われてきております。市場原理を導入して学校を競争にさらず、学校選択性が取り入れられ、学校格差、地域格差へと進んできました。教育基本法が改正され教員免許法、教員免許更新制とか、このような流れに同一し中高一貫校とか、大学の独立法人化とか再編されてきております。規制緩和で自主性が高まり自由な学校づくりが可能だと評価されておりますが、小中学校の統廃合が進み良くない現象が生まれてお</p>

	谷森議員	<p>ります。新自由主義教育政策の中で、それまでの教育の主要問題とされていた、いじめや不登校、学級崩壊など、子供たちのことがわきに押しやられ、国際協力に勝てる学力等が重要視され全国一斉学力テストによる子供たちの競争で教育が語られ、真に教育、子供たちのことを考えるのではなく、教育の成果主義が重要視されるようになりました。私は、住民自治という言葉と等しく 教育自治 教育の高い理念を求め地域住民、保護者、子供、学校教職員等が主体となって、これからの教育、大きなことを言えば国民的な合意形成が大切であると考えますが、新自由主義教育の問題点、今後の教育のあり方について教育長のご所見をお聞かせいただきたいと存じます。以上です。</p>
	末武議長 北山教育長	<p>教育長 北山正道君。 谷森議員さんの新自由主義教育の問題点、今後の教育のあり方についてのご質問にお答えいたします。わが国におきまして教育における新自由主義改革の兆候が表れましたのは、昭和59年中曽根首相の臨時教育審議会における教育の自由化、公立学校の民営化であると考えます。近年の新自由主義的教育改革におきましては学校制度の複線化、選択と自己責任に応じた学習コースの分化、習熟度別の子に応じた指導、習熟度別学級編成、6年生中等学校、大学、大学院への飛び入学、学校選択制度の導入などが進められてきました。こうした新自由主義的教育改革が国民の多数の支持や期待を集めているかに見える状況は、不登校、校内暴力、体罰、いじめといった様々な教育問題が教育への不満や不安を生み出し改革への期待を呼び起こしてきたこと、また規制緩和を進める教育改革に、教育現場の教職員の中からも一定の期待と指示が寄せられてきたこと、子供や保護者、住民の学校への参画がこれまではやや閉ざされてきたこと、こういった事情をあげることができると思います。</p>
	末武議長 谷森議員	<p>まんのう町教育委員会の当面の課題は、学力向上と不登校をはじめとする生徒指導の充実のほか、教員の資質の向上、幼児教育や特別支援教育の充実、学校施設の耐震化、満濃中学校の改築などの環境整備も引き続き重要な課題であります。今後、教育委員会といたしましては、わが国の社会に長く受け継がれてきたよき習慣、伝統により、自由競争原理、市場経済のどうしても避けられない欠点を補い、また、自由競争原理のやむを得ない副作用を抑え、子供たちが社会生活を営み、自立した一人の人間として力強く生きていくための総合的な力を身につけることができますよう、学校、家庭、地域と一体となりまして、地域総ぐるみで教育行政を推進し、様々な教育課題の解決に努めてまいりたいと考えております。</p>
	末武議長 谷森議員	<p>谷森哲雄君。 今、教育長のお答えがあったわけですが、私はやはり1番問題になるのは政治、経済いろんな場で競争原理、いわゆる市場に委ねると、こういうことが1番大きな問題ではなからうかと思えます。そういう中で子供達に競争をしいると、そういうことで色んな弊害がでてきておるわけでありまして。そういう中で日本のよき伝統いうんですか、古きからの伝統が失われつつあると</p>

<p>谷森議員</p>	<p>そしてまた、日本の歴史とか気候、風土それから人情に育まれて子供達が地域の子供であるし、また地域の学校であると、これが合併とか様々な事由によりまして学校の統廃合が進んで本当によくない現象が現れていると思います。そういう中で現実にまんのう町でも学校の統廃合が大きな問題になって、そのあとの利用とかそれからまた子供たちの通学の問題とか、様々な問題が出ておるわけでございます。そういう中で本当の自由いうんですか、これは本当に子供を中心にした教育と、それからまた先生も元気でなければならないと、こういうことをよく聞くわけでございますが、このことについていわゆる競争とか、そういうことについて私はよくないと。いい面もあるかと思いますが、そういうことについて教育長のお考えを再度お聞かせいただけたらと思います。</p>
<p>末武議長 北山教育長</p>	<p>教育長 北山正道君。 再質問にお答えします。私は教育の場において、谷森議員おっしゃるような問題のあるような競争というのはだめだと思っています。しかし、いい意味での競争というのは大事なのではないかなというふうに思っています。少なくともまんのう町で教育行政を進めて行くうえにおいては、どの地域に住みどの地域で学んでいても少なくともそこに教育の格差それが無いようにしたいと思っていますし、勉強する教育環境が差がつく、生まれ育ったところが違うことによって教育環境に差がある。そういうことは絶対避けなければいけないと思っています。そうした意味で現在、耐震化もそうですし、ランチルームの整備等含めまして教育環境の整備あるいは、やはり、何と申しましても子供たちにとって最大の教育環境っていうのは教師だと思っています。教師に指導力がなければやはり子供たちに学力の差がついてまいりますので、本年4月からスタートさせていただきました、まんのう町教育研究所ではこの夏も早速に保育所、幼稚園の教員を対象としました研修会も実施しますし、各種、各学校で現職教育をリードする先生方にも集まっております。先生方一人ひとりの指導力向上のために頑張っているところでございます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。</p>
<p>末武議長 谷森議員</p>	<p>19番 谷森哲雄君。 教育長に1点だけ最後をお願いしておきたいわけではありますが、中学校の統合問題とか、こういうことが現実的な問題となっておりますが、教育というのは私立の教育もあります公教育といいまして、いわゆる東京であろうが、どんな山奥であろうが教育の機会均等と、これが非常に大事な教育の原点、基本でないかと思っておりますので当然もし、中学校が統合された場合に琴南地域の生徒は本当にいろんな面で大きな障害を持つわけでございます。そういう中で教育の機会均等どこにおろうがやっぱり公平に教育が受けられると。こういうことを特に学校統廃合とか、そういうことにつきましてはそういうことを十分配慮していただいて、今後のまんのう町の教育行政を進めていただきたいということをお願い申し上げました私の質問を終わります。</p>
<p>末武議長</p>	<p>以上で19番 谷森哲雄君の発言は終わりました。</p>

未武議長	引き続き、一般質問の通告がありますので、これを許可いたします。7番 白川美智子君。 <p style="text-align: right;">(三好議員退席 13時31分)</p>
白川美智子 議員	7番 白川美智子です。まず、1番目に介護保険の引下げを、2番目に中讃地域の緊急医療体制を、この2点について質問を行います。まず、それより前に一言付け加えさせていただきたいと思います。今月16日より、元気宣言、わが町まんのう町が掲載されました。町民より、この乗り合いタクシーの実証運行をみた喜びの声が寄せられております。私はこの政策が目的地へ早く着けるよう工夫をしてまた大勢の利用者が参加できるように、より良いものになることを望んでおります。 介護保険の引下げを、介護保険は発足してから10年目を迎えます。しかし、介護の現場は深刻な人材不足で事業所の閉鎖も珍しくもなく、一方で保険料だけ取り立てて介護なしといわれるように家族介護の負担は非常に重くなり、虐待や殺人、自殺など増えております。今年4月より、保険料、介護報酬、事業計画など見直されました。しかし、浮き彫りになっているのは高齢化の進行で利用者が増えたり、介護報酬の引き上げで労働条件の改善を図ろうとすれば低所得者まで含めて保険料、利用料が値上げになってしまうという介護保険を抱える矛盾があります。わが町も高齢化が進み国の調整交付金はあるものの県下で1番高い保険料となっています。また、2号保険者の場合は医療保険と一緒に支払わなければならないため家計を圧迫しています。低所得者の軽減処置はあるものの本来の負担額が、高齢者の負担能力をはるかに超えています。利用するにしても利用をあきらめざるを得ない人を作り出しています。保険料、利用料の費用負担の改革は国庫負担の割合の引き上げです。介護保険が始まる前の50%に引上げることは国の責任を明確にするため重要です。まず1番目に県下1番高い介護保険料を一般会計、また一般会計より繰入また基金からの1億円の取り崩しにより、保険料の引下げをお願いしたいと思います。2番目に介護認定は利用者の生活実態が反映できるように調査をし、実際に担当した人たちが認定する方式を取るよう進められれば良いと思います。3番目に国庫負担は25%から50%に上げるよう国や県へ要望していただきたい。町長の所見を求めます。 <p style="text-align: right;">(三好議員着席 13時34分)</p> 2番目に中讃地域の救急医療体制であります。私たちは今元気であっても、いつ急患になって倒れるかもしれません。脳卒中、心筋梗塞など循環器疾患または交通事故など、いつ、どこで、何が起きるかわからないわけなのです。安心して受けられる医療の体制が必要です。南部消防の搬送先を聞いてみました。その搬送先は5年を遡ってみますと管内への医療機関へは年々減っていて、管外へ行くのが年々増えています。そしてまた、搬送先の病院の内訳をみますと丸亀の労災病院は年間200人であったのが、今は450人と2倍強に送られて労災病院へは受入できない状況になっています。それからみますと、善通寺の国立病院は逆に100人から減っている状況です。国立病院の診療科目も減り精神科、産婦人科、また、耳鼻科が休診であります。脳神経外科も日

<p>白川美智子 議員</p>	<p>替わりで医者確保はしているものの、夜は休診となっていて事実上、体制が取れていない状況であります。そのような状態では都会並みの患者のたらいまわしはないものの、一刻を争う急患の場合はどうなるのか不安です。まず、1番目に善通寺病院の脳神経外科などの充実、拡充を関係機関に働きかけていただきたいと求めます。2番目に安心して地域医療を守るため、救急対策を国や県へ要求していただきたいと思います。以上で終わります。</p>
<p>末武議長 栗田町長</p>	<p>町長 栗田隆義君。</p>
	<p>白川美智子議員のご質問にお答えします。まず、第1点目の保険料の引き下げをについて、1点目の県下一高い保険料を基金の取崩しにより引き下げをについてでございます。ご存じのとおり、第1号被保険者の介護保険料につきましては、3ヵ年 平成21年～平成23年を1つの期間として、その期間内にどれ位の介護給付費が必要になるかを試算して決めて行くことになってございます。</p> <p>介護認定者につきましてもこの期間内に増加することとして予想してございます。また介護報酬につきましても増えてございますし、加えて第1号被保険者からの保険料の負担率も19%から20%に増えております。また、議員ご指摘の基金の取り崩しにつきましては、この期間の保険料を決めていく際、基金1億5千万円を活用することを前提にしてございます。従いまして、このような状況を精査して、今回の保険料額を決定し、お願いしてございます。今回の保険料につきましては、第4期の最初の年でもあり、また、数ヶ月しか経っておりませんので、現時点においては、保険料の引き下げについては、考えてございません。なお、平成22年度後半においては第5期 平成24から平成26の計画準備を進めることになってございます。どうか、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。</p> <p>次に2点目の介護認定は、利用者の生活実態が反映できる調査をについてでございますが、介護認定につきましては、本年4月から認定項目が改正され、訪問調査を82項目から74項目に8項目減らしてして新しい認定方法で実施してございます。</p> <p>しかし、今回の見直しにより軽度に認定されるのではないかと等の不安が生じているとの指摘から、厚生労働省では、利用者・家族の代表や専門家による検証・検討会を設けて、きちんと検証を行っております。その間、町におきましては、更新申請の方に限り経過措置希望調書の提出を頂き、介護保険利用者の混乱、不安を解消してございます。この希望調書につきましては、利用者が従来の介護度を希望すれば、それが可能となるといったものでございます。また、介護認定調査は、全国的に統一されたもので行っています。利用者、及び利用されようとしている方の生活実態がどのような状況なのかはわかりませんが、介護認定調査については、その家庭の生活環境といった事柄についての調査はいたしておりませんので、ご理解を賜りますようお願いいたします。なお、例えば、劣悪の生活実態と言ったことであれば、他の制度で、生活保護法による措置、或いは養護老人ホームへの入所措置などの制度による支援が考えられますので、よろしく申し上げます。</p> <p>次に、3点目の国の国庫負担を25%から50%に引き上げる国、県へ要望をについてでございます。現在、介護給付費は、1号被保険者と2号被保険者の保険料で50%、残り50%を国、県、町で負担しております。町においては12.5%負担してございます。また、国において</p>

<p>栗田町長</p>	<p>は、施設分として15%、居宅分として 20% を負担しております。その上、調整交付金で5% 実際は、8%程度 を負担してございます。被保険者の負担を軽減するためには、国、県の負担増は必要不可欠であると考えますので、今後、町長会、また担当幹部会議などで協議し、国、県へ要望するよう努めてまいりたいと考えていますのでよろしくお願いします。</p> <p>次に第 2 点目の中讃地域の救急医療の体制についての、1点目の安心して生活できる地方行政をどう考えるか。についてでございます。救急医療体制において、安心して生活できる町行政の推進につきましては、ご存じのとおり平成 19 年度に作成いたしました「まんのう町総合計画」にも掲げていますように、本町には、病院・一般診療所が11か所、歯科が6か所ございます。また、本町は中讃保健医療圏に属し、二次医療圏域といたしましては、圏域により協力して病院群輪番制や在宅当番医制を実施してございます。これにより夜間や休日における救急医療などに対応をしているところでございます。また、本町は仲多度南部消防組合に加入し、救急患者における搬送業務などは消防本部において実施しているところでございます。また、公共施設などへは自動体外式除細動器を平成 19 年度から設置し、現在は、本庁舎、支所などの公共施設へ22器設置いたしました。今後も未設置の施設については順次設置していく予定にしております。</p> <p>また、今後も関係市町、及び関係機関との連携を強化し、住民が安心して生活できる町行政の推進を図っていきたくて考えております。</p> <p>次に2番目の国立善通寺病院、脳神経科は事実上ないようなもの。また近隣の入院施設の縮小、医師不足についてでございますが、議員ご指摘のとおりであろうと思いますが、本町においては、先ほど申しましたように病院・一般診療所・歯科、合わせて17か所ございます。その内、入院ができる病院は3か所ございます。議員からご質問がありました本件につきましては、近隣の市町長が集まる会議、また中讃保健医療圏の会議などで、話し合ってみたくて考えておりますので、ご理解を賜りますようよろしくお願いします。</p> <p>次に3点目の救急患者のたらい廻し寸前、国、県へ実態を要求するようについてでございます。先ほど申しましたように本町は仲多度南部消防組合に加入し、救急患者における搬送業務などは消防本部において実施しているところでございます。消防本部で、その実態を聞き取り調査をいたしましたところ、救急患者を搬送する際には患者の意見を尊重し、患者が指定する病院を優先的に連絡し調整をしているようであります。また、その病院等との連絡調整が出来ない場合は消防本部において、次の病院へ連絡し調整をしているようであります。中讃保健医療圏においては、善通寺市、丸亀市、坂出市、綾川町に総合病院があり、ここ数年は何か所もあたるようなことはないようであり、比較的スムーズに患者を搬送しているようであります。しかし、今後、議員ご指摘のようなケースがあっては困りますので、まんのう町においても、関係市町とも協議しながら国、県へ要望するよう努めてまいりたいと考えておりますので、ご理解を賜りますようよろしくお願いいたします。</p>
<p>末武議長 白川美智子 議員</p>	<p>白川美智子君。</p> <p>再質問を行います。介護保険料は第 1 号被保険者と第 2 号被保険者との按分になっている方式になって年金中心の方は、重い負担がかかっております。そして、また、介護給付準備基金は本来 6 5 歳以上の高齢者に返却するべきだといわれていますが、それ</p>

白川美智子 議員	<p>らはどう考えますか。緊急対策、非常に大事なわけなんです、たらいまわしということは労災病院でもその日の日報が入って受け入れられるか、られないかという情報がきちんと入っておりますので、消防の方も安心して行けると思います。そして、次また質問いたします。</p>
末武議長	<p>宮地隆君。</p>
宮地健康 増進課長	<p>白川美智子議員さんのご質問にお答えします。介護保険料の第1号被保険者に係るものに対する65歳以上の保険料の返却の件だと思っております、今のところ考えてはございませんのでよろしく願いいたします。</p>
末武議長	<p>白川美智子君。</p>
白川美智子 議員	<p>今、まんのう町の介護保険なんです、本当に高いので私も何とかならないかと思ったりいたしますけど、やはり高齢者に向けて外出の機会を増やしそして趣味をもっといただいて、いきいきサロンまたは健康づくりの参加を大いに呼びかけて介護認定者に加わらないような工夫が大切ではないでしょうかと思います。これは、答弁はいりませんが、是非とも健康になっていただくような参加を呼びかけていただきたいと思います。以上で終わります。</p>
末武議長	<p>以上で7番 白川美智子君の発言は終わりました。</p>
	<p>引き続き、一般質問の通告がありますので、これを許可いたします。14番 三好勝利君。</p>
三好議員	<p>それでは、やっと順番がまいりましたので3点ほど簡単な説明をさせていただきます。午前中から午後続き非常に難しい高度な質問がなされたと思いますけど、執行長におかれましてこの約3年過ぎ、あと残された1年全力投球でやるという迫力ある回答もいただいておりますが、近隣の町では相当高齢者の方も来年度の政権を何とかしてやる。これは年齢じゃなくして地域に託する情熱だという力強い表現をされております。そういう中で3点ほど非常に簡単であり、また、金もかからない点がほとんどでございますので、どうぞ明確な回答をお願いします。1点目といたしまして、合併後3年の評価としてありますけど、これは執行部に自分で評価せというのはおかしいので3年の成果と残された課題について、この問題にいたしまして合併に関する関連問題として何回となく質問し、また回答されておりますけど、その中でまだ残された課題、また合併後10年間は交付税も変わらない助成金も現状維持ということで、我々は半分騙されたか結果が良かったか、どうか知りませんが合併にこぎつけて新しい町がスタートしたわけでございます。そういう中で、出来た点と出来なかった点、今後どうすればええかということをお答えいただきたい。</p>
	<p>2番目といたしまして、温暖化対策についてでございます。これ環境面ですけど午前中も資源ごみですか、いくらになったかというきちとした数字の出る話もありましたけど、こういうのはもうぼつぼつ、ごみ関係、し尿関係、下水関係というのは、だいたい整備がなされて前へ進んでおります。私が、前回も申し上げましたように、ある人がちっと大きな風船を上げるんでないかと</p>

<p>三好議員</p>	<p>言われたけど、大きな風船じゃなくして CO2、地球温暖化というのが本当に、今世界中の話題となり朝に晩にテレビでニュースで報道されないことはありません。まあ、誰も全然関連性のない、気にもしてない解散とか政権交代とか誰も望んでおりません。いかにして地域を良くし我々の生活をアップしていただくかという方向で、皆さん興味を持っているんでないかとそのように思っております。ですから CO2 関連で先ほど言われましたように資源ごみ、そういう関係は先ほど回答いただきました結構です。それよりかもう少し別の観点で回答いただきたいと思います。それと3番目として子育て支援策これ、どこでもここでも今、子作り、子作り、少子化、少子化とっておりますけど少子化だけで叫ぶのは簡単ですけど実際に作って育てて大きくするというのは本当に大きな課題が残っております。お金もかかります。そういう中で人口減に歯止めをかける意味で本町として今までにとられた問題まだ、やってないけど今後はこうしてみたいという問題があれば回答願いたい。それについて私は、私なりの資料に則って質問したいと思います。以上です。</p>
<p>末武議長 栗田町長</p>	<p>町長 栗田隆義君。</p> <p>それでは、三好議員さんのご質問に答弁いたします。合併後3年間の評価と残された課題のついてのご質問でございます。</p> <p>先日、政府の地方制度調査会が1, 999年から国主導で推進してまいりました平成の大合併 について行財政基盤強化に一定の成果があり、来年3月末で打ち切るとした答申を提出したことが報道されました。地方財政の危機により、多くの地方自治体そのものの存続が危ぶまれるという重い負荷をかかえた非常に厳しい状況の中で、新まんのう町もスタートいたしました。そして、早くも3年が経過いたしました。類似した3町ではありますが、それぞれの歴史・文化がありそれらを大切にしながら新しい町づくりに努めてまいりました。そしてこれまで私の取り組んでまいりました一端を述べさせていただきたいと思います。まず財政の健全化であります。健全化の指標の1つであります実質公債費比率、起債制限比率などの改善を図ることができました。また、財政調整基金につきましても増加いたしております。選挙公約にも掲げておりました実質単年度収支の黒字化につきましても大きな金額ではございませんが、18年度、19年度共に黒字化が達成できました。20年度の決算が出ておりませんが、20年度もおそらく黒字化ができるものと思っております。次に、ハード面におきましては、情報基盤整備事業の実施、学校施設の耐震化の推進、公共交通の地域間の格差を解消するため、デマンドタクシーの運行の体制の構築、健康づくりの推進など、主に住民生活の向上また安心・安全のための事業などを展開してまいりました。</p> <p>私は、まんのう町の行財政改革の状況は、優等生ではありませんが、決して劣等生ではないというふうに考えております。しかしながら、さきほど早や3年ともうしあげましたように、新しいまちづくりは、短期間で実現できるものではございません。福祉、教育、産業、環境、地域振興、インフラなど行政が担うすべての分野においてやるべきこと、やらなくてはならないことが山積い</p>

	栗田町長	<p>たしております。1歩1歩堅実に前進し、住民の皆様が、住みたい、住み続けたい町づくりの実現を目指してまいります。</p> <p>次に2点目といたしまして、地球温暖化対策についてのご質問でございます。温暖化対策を含め地球を取り巻く環境は多くの問題がとりざさされております。ご承知のとおり、今地球規模で問題になっているもののひとつにオゾン層の破壊がございます。太陽からの有害な紫外線を防ぐ役割をしておるオゾン層に、フロンガスによって近年急速に南極、北極の上空にオゾンホールと言われる穴があき、さらに大きくなっておるといわれております。フロンガスは冷蔵庫やクーラーに使われており、破壊力に少ないものに切り替わりつつありますが、まだまだ、破壊力に強いフロンガスを使用した冷蔵庫などが使われております。家電製品は家電リサイクル法により販売店などで引き取ってもらうことになっておりますが、不法投棄が少なくないのが現状であります。今後とも家電リサイクル法にそった処理をされるよう家電販売業者と共に周知をしていく必要があると考えております。私たちが豊かな暮らしを求めて行った大量消費、大量廃棄が結果的には大きな影響を及ぼし地球温暖化を始めとする深刻な環境問題を引き起こしました。まんのう町が取り組んでおります温暖化防止といたしましては、庁舎の太陽光発電システムの設置、冷暖房の温度設定を変えてのクールビズやウォームビズ、分別収集による資源ごみリサイクル事業等がございます。また、家庭でできる取り組みといたしましてはアイドリングストップや家族のだんらんは1部屋でする。風呂の残り湯は洗濯に利用する。近くへの買い物は徒歩または自転車で買い物はマイバックなど。身近なところから生活を見直し温暖化の原因になるCO₂の排出量を削減するために一人ひとりが出来ることから一つずつ実行していく必要があります。また、森林は温室効果ガスである二酸化炭素を吸収したり、貯蔵する役割を果たしておることから森林保全にも努めていかなければならないと考えております。環境問題は私たちの生活に関して大変重要な問題であります。三好議員さんは環境問題は地方から推進していくべきであると常々もうされておりますように住民の一人ひとりがこれまで以上の関心をもっていただくことも大切であります。このようなことから今後においても住民には広報等によりCO₂の削減のための周知を行っていき自然環境にも目を向ける機会を作っていく必要があると考えております。また、関係各課、関係機関とも連携をとりながらCO₂削減に努めて行きたいと考えておりますのでよろしくお願い申し上げます。</p> <p>また、子育て支援といたしましては、まんのう町では乳幼児医療の助成またデマンドタクシーを利用させていただくことに関して子育て支援になろうかというふうに考えておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。</p>
	末武議長 三好議員	<p>三好勝利君。</p> <p>一部は詳しく、一部はあまりにも簡単にそっぺなく返事をいただいたんで、あんまりピンと来なかったんですけど、まず1点目の合併後の件ですけど先般の国よりの通達というか、国、県の指導に従い一律に職員とか議員とかの手当カット、これはしかたない現状だと思います。そこで私が気になるのは合併したとこもしないとも一律でないかと、何のために合併したんやと村の名前を</p>

<p>三好議員</p>	<p>消され学校を潰され、利便さを失われ相当職員も議員も数が減っている。住民の方にしても非常にやはりそこには不合理な関係が生まれておるわけです。それで今回は全国一律ですよ。やはり、総理大臣がりっぱ、県知事さんがりっぱでも言う時には嘘ばかり言うて合併さしといて、いざやるときには周知は同じやと。こういうのではやっぱり住民も納得しないし、我々議会としても納得できません。はいっきりいうて。やはり、合併したとははただけの何かのメリット、よかったなど、隣の町がうらやむような施策を講じないと合併した意味がありません。名前も変わり何回もいうけど、長年住み慣れた村の名前が消え学校が消えたわけですから。それなりにまんのう町は良かったのと、県下でもいいあれは出来たのと。今、はやりの光ファイバーですか、これも出来ました。デマンドも出来ました。それは十分承知しております。そういう中で先ほど町長が申されたように18年、19年度が黒字財政ね、収支決算がなったと。これはやはり、絵にかいたぼた餅というか、行政のええ格好であって、ただ財政を黒字にしたら今は天下をとったような中央の政権でもありますが、とにかく赤字を解消して黒字にすれば天下を取ったような。それはわかります。若い者に借金を残さないようにするには。但し、その過程において、やはり、あれもし、これもし、縮小やっただったらこれは誰でも出来ることなんです。やはり現状維持をなるべく縮小することなく住民に迷惑かけることなく、やはり住民に提供するのが我々行政の役目だと私は聞いております。そういう中でまもなく選挙がありますけれども、先ほども申しましたけど解散はいつやとか、ね、政権はどうだとか、誰もこんなのは望んでおりません。とにかく我々の生活がいかに良く、いかに幸せに暮らせるか、世の中を作っていただけのこと主眼で、解散総選挙は誰も望んでおりません。9月にはいやがおうでも選挙が始まり我々も来年の4月にはいやがおうでもあと1年ということではできません。そういう中で選挙関係で一つ不合理な点が出ております。一部地区におきまして、やはり、投票率、投票率、これはわかりますよ。投票率は。但し、その投票所を集約して数を減らした。県に対してええ格好、国に対してええ格好これはわかります。住民に対して大きなしわ寄せ、そこにおいて投票率を上げ、投票率を上げ、極端にいうたら交通安全対策で啓蒙、啓発をやりながら信号機をつけない。そういう問題と同じなんです。ですから1箇所例えば投票所を閉鎖すればなんぼの利益に繋がるか、ここ20年の間に何回選挙があったか。参議院、衆議院。我々、県会とありますけれども、できうるなればなるべくそれを省略して合同で選挙をやると。そういう方法をとれば別になんなく3ヶ所、4ヶ所増やしても同じ経費で済むと思うんです。前回は我々の選挙も本当に中途半端でやりました。あと1年延ばせば統一地方選挙をまっとるんです。それをやるのに全国レベルで約800億から900億と費用を聞いております。そういう中で選挙に行ってくれ、行ってくれ、そうやって頼むんだったらあんたらちょっと行政の方も考えないかんと。この遠い山の中3kmも4kmも5kmもどうやって行くんな、乳母車押して、誰ぞに乗せていってもろたらええがな、そういうわけにはいかんと。やっぱり自分で行って自分で行使したい。そういう中で例えばこれは、選管の事務局が総務課にあるから私言うんであってこれはやはり、選挙管理委</p>
-------------	--

<p>三好議員</p>	<p>員会の方が決めるので当然だと思います。但し、我々の選挙第1回の時はやってみて、やはり不合理があったとそういうような点があれば、それから今度初めて国政レベルの選挙があるんですよ。さっきも申しますように解散とか、誰も有権者が望んでおらんに自分だけの都合でやっとなるわけです。それだったら自分だけの都合で選挙するんだったらそういう投票所を縮小して潰すことをするなど、はっきりいっただけです。これどのように考えますか。ただ単に経費の問題だったら、いくらいるか、経費を全部出してもらって何かの形でそれぐらいの経費は出てくると思いますよ。それが1点です。やはり、選挙はしやすいように。投票しやすいように。スーパーでもそうでしょうが、駐車場構えて、あの手この手で広告を出して色んなチラシを出して買い物に来てもらうようにするでしょう。我々やはり、投票していただくにはやはり来やすい場所、来やすい日程、そういうので日曜日になっとなるわけです。片方から言えば1週間も不在者投票があるじゃないかというその点は十分考慮できます。その点は十分考えていただきたい。もう、目の前ですから。それから一部の地区において税の軽減ということも以前もお願いしましたけど非常に難しい。ある市では市民税を安くする全国でうちが1番じゃという吠えとる市長さんがおります。実際にするかどうか、議会と相談するといっただけですけどこれもやはり全国で初めてやっとなるわけなんです。我々がやっぱり合併して郡部の辺鄙なところは過疎の拍車をかけてどんどん過疎を促進しておるような状態になっております。そういう中で住民税の場合はそこにAという場所に登録してどこであってもええいうわけじゃないけど、そういうふうな状態がおきますけど固定資産の場合はその場所でその場所の納めるわけです。私もちょっと町外にありますから令書が来ましたが、そういう中でこれは住所をどこにおこうと、とにかくここにおける物件に対して税が来るわけですから、その点はいうまでもなくご承知やと思います。そういう点でやはり辺鄙なところに何かの軽減措置あるいはトラックで来るならば乗用車は県の管轄ですけど軽トラックの場合は町の管轄です。その辺の税の考慮そういうことを考えたことがあるか、考えても出来ないか、それとも全然考えたこともないか、その点でお聞きします。それと先ほどデマンドタクシーが出来る。これは本当に非常にユニークな考えで県下でも初めてです。やっとなんと練って練って約3年、はよしなければ次の時代になってしまうという時にやっとなんとこの秋頃から実施されると思います。そこですよ。今までだったら、タクシーで行けば1500円、2000円上がっておったのが片道デマンドタクシーに乗って300円、ね、300円で行ける。定期券を買えば3,000円、そういう中で医療機関とか、役所とか、例えば1回来て300円往復600円、これだったら片道何とかしてやりましょう。例えば1,500円、2,000円を半分カットすれば1,000円大きな負担になります。ただし、今度は300円で町内移動が出来るわけですから夢みtainなことで、もう一つ踏込んでやるのならば実施してから結構ですけど、実施してからやるとまた2年ぐらいかかります。ですからそういう点も情報収集して全国でもやっているところがあります。そういう中でたとえ300円でもタクシーに乗って役所へくれば、それから医療機関へ行けば何かの形で助成をしてあげましょう。ということも考えております。聞い</p>
-------------	---

<p>三好議員</p>	<p>てみますと法的にこれは問題ないそうでございます。それとまだ沢山ありますけど時間がないので。</p> <p>次に2番目の温暖化ですけど、先ほど申しましたように空き缶とかそういう点のはだいたい前もっていきよるし、汲み取りとか云々、それからそういう関係はだいたい行っております。今一番大きく問題になっておるのがやっぱりCO2の削減でございます。そういう中で今後は太陽エネルギーを使う、うちの庁舎も全国に先駆けて本当に先見の目があり太陽発電をやっております。全国的にも新聞にも載りテレビも賑わしました。そういう点が一時停滞しておったんですけど、またここ最近、相当クローズアップしております。自動車何かでも電気自動車があと10年もすればほとんど大型トラックとかは別として、軽乗用車とか普通車ぐらいだと思うんですけど10年もすればほとんど電気自動車になるんでないかと、その電気自動車の電気も太陽光発電でやるとCO2が完全にゼロやと、そういうふうな研究データも出ておりますし、CO2の排出量の1番多いのは自動車で17%排出しておる。そういう統計も出ております。そういう中でやはり本町としては、やっぱりこの自然に恵まれた朝から晩までさんさんと太陽が照り注ぐ場所でございますので、そういう点も太陽エネルギーを使った住宅とか工場色んな点で全てにおいて、出来やすいんじゃないかなとそのように思っております。例えばですけど、また、大きなことを風船と言われますけど、これ風船でもなくして学者が言うたことですけど全世界の1年に使うエネルギーを太陽光発電で利用すると、おそらく誰も信用せんけど1時間で賄えると、それぐらい太陽光の発電は無限にあるそうです。まあ、そういうことで参考意見として聞いてってください。ただ太陽パネルを国内全部で賄う場合には100kmの太陽パネルをすると国内のエネルギーが全て電気関係は賄える。そういうような資料も出ております。そう中でやはり、今後、売り込んでいくには環境のいいまんのう町でございますので、是非ともそういう点を調べてこれからまだまだ補助金が出てきますから、そういうのを利用してやっていただきたい。先ほど、町長が申しましたように山の森林を保護するという点も十分です。ただ、前回も申し上げましたように我々の大山から龍王山ですか、あの辺までかけるとやっぱり1000mそこそこです。ほとんど木が生えております。全国でも中央アルプスまで行くと1000m以上は全部、岩、石鎚山にしても剣山にしても7合目から上はほとんど木が生えておりません。我々の町は全て頂上まで木が生えております。そういう中でやはりCO2を削減するのは樹木の手入れが1番だということも言われています。是非ともそういうことを取り入れていただいて地域の活性化にしていく環境ビジネスはこれからまだまだ盛んになって何十兆円という環境産業がある。その中で雇用も170万人ぐらいの雇用になるんだという大きな統計が出ております。それは私が考えたことでありません。ずっとずっと偉い方が考えたことであります。そういう方面も取り組んでいただきたい。</p> <p>それと子育て支援策ですけど、あまりにも簡単明瞭でわかったかわからないかのようなこなんですけど、医療費の減免措置これは本当に全国に先駆けて香川県でもトップ全国でもあまりやってない、そういう中でやっぱり何回も申しますけど2度、3度、書</p>
-------------	--

	三好議員	<p>類を持っていくのではなくして町内で見えていただいたら直接支払い制度でその場でOKが出ると、そういうことやっぱりやっていただきたい。再三再四お願いしましたが医療機関はその方がいいんでないですかと言っておりますけど行政の都合でまだまだ実行できておりません。あと1年もすればまた状態が変わると思いますけど、できるだけそういう方向も、是非、先ほどある議員さんが言われたように土地改良と一緒に町長の決断でやれという命令を出せば出来ると思います。その辺を十分肝に銘じて考えて下さい。それとまた大きなことをいうと思いますけど、日本にとってみますと先進国の中で一番子育て費用、教育水準が一番低いと言われております。そういう中でやはり、香川県でもトップ、まんのう町がトップいうふうになれば、やっぱりクローズアップし人口増にも多少なりとも繋がるんでないかなと思っております。一部地域によりますと子育て支援策の案によって相当人口が増えた。子供が増えると高齢者も元気になるというような資料も出ております。そういう中で単なる問題とせずに非常に重要な問題でございますので、環境なんかとリンクしてやるのは絶対的に行政がやらなければ誰がやるというような問題があります。やはり行政が取り組んでやるのが必要だし、またせまられております。そういう中で出来る限り早急に幼保一元化をやってバスによる送迎をやる。高齢者の介護保険云々で朝に晩にあれだけの医療機関のバス、車が送迎しておるわけでございますので、それを子育て支援策の枠にやれば別に金額は微々たるものだと思いますよ。やるか、やらないかの問題です。その辺も、あと残された時間も僅かですので再度執行長としての意見をお願いします。</p>
	<p>末武議長 栗田町長</p>	<p>町長 栗田隆義君。</p> <p>三好議員さんの再質問にお答えをいたします。まず、合併して3年、4年目に入っておりますが、その成果が中々見えてこないということでございます。合併した市町もしてない市町もあまり変わらんじゃないかというようなことではございますが、まだまだ目に見えた成果が出てきておりませんが、今回、平成20年度の第2次の補正予算、また平成21年度の補正予算等を見てもやはり合併した市町と合併してない市町はかなりはっきり差が出ておるように思います。そういった意味でまんのう町はかなり手厚い補助金、補正予算がついております。そういったことで、この補正予算の有効活用を早いうちに実行し、また、21年度の補正につきましては、今、色々検討しておるところであります。20年度の3月議会に承認をいただきました補正予算につきましては早急に実現をするように努力をしていきたいと思っておりますし、その補正予算、町民の皆様方が喜んでいただけるような施策にしていきたいと思っております。また、それとは別枠の公共事業の方で高屋原の浄水場の方で高度浄水処理施設の予算もつくのではないかと考えておりますので、そういった面も今からはっきり形に表れてくるものと期待をいたしておるところでありますし、そのために町をあげてがんばってまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>また、2点目のCO2に関する問題であります。自然エネルギーを有効活用するというのは非常に大きなCO2対策の効果的な</p>

	<p>栗田町長</p>	<p>手法であるというふうに思っておりますので、三好議員さんご指摘の太陽光発電につきましては、家庭用の太陽光発電につきましても県の方も再度補助金を出すというような方向で進んでおりますので、町といたしましても家庭用の太陽光発電につきましては今後、助成補助金を考えてまいりたいと考えております。</p> <p>続きまして、投票所の増設といいますか投票所の箇所数でございますが、三好議員さんご指摘のように合併した時におきましてかなり投票所の数が減っておるのは事実でございます。行財政改革の一環ということであつたろうと思いますが、投票率がそれによって下がるというのは非常に不本意なこともございますし、この投票所の数につきましては選挙管理委員所管でございますので選挙管理委員の方とも十分に相談をさせていただいて検討してまいりたいとこのように考えております。</p> <p>また、町の税金の軽減制度でございますが、やはり企業誘致のためには町税を軽減してやはり企業誘致を図っていかなければならないというふうに考えております。現在、まんのう町では企業誘致のための町税の軽減を実施している制度といたしましては、まんのう町条例の中に過疎地域自立促進特別措置法と農村地域工業等導入に関する町税の特別措置条例等がございます。合併前より旧仲南町において実施されておりました農村地域工業導入に関する町税の特別措置条例ですが、これは企業の製造工場等の土地建物及び償却資産の固定資産税が一定の要件を満たせば3ヵ年間免除されるという制度でございます。現在、この適用を受けております企業が大倉工業、フジコー、ヤマガタグラビアと3社ございます。これは過去に適用を受けていても建替えや増築を行えば適用されることになっております。つきましては、固定資産税の軽減額に対し交付税からの補填措置があります。次に琴南町においては過疎地域自立促進特別措置法による固定資産税の軽減を実施しておりました。課税の減免内容については農工法と同じでございます。これにつきましては現在減免対象の事業者はございません。なお、現在、個人に対し住宅を新築した場合には3ヵ年限り1/2が減額されております。21年度現在では、270戸が減額対象となっておりその軽減額も約1200万円となっております。この追加策として新たに町独自に軽減実施することも可能かと思われれます。他の自治体では3ヵ年減免を実施しておるところもあるようでございますので今後検討してまいりたいと思っております。</p> <p>次にデマンドタクシーに関してでございます。四国内でデマンドタクシー事業を実施しておるところは四国中央市及び伊方町に問い合わせて質問をしてみました。現在のところこの医療機関の利用料の一部を助成するといった制度は今のところその一市2町では実施をしていないというようなことでございます。課題といたしましては町内医療機関が利用者に利用料の一部を助成することに理解があるかどうか、また2番目には、医療機関が利用者の交通費の一部を助成することが制度上可能か検討しなければならないこともございますので、今後検討してまいりたいと思います。いずれにいたしましても、多くの住民の方に利用できるような利便性を高め、利用者である町民の皆様方に喜んでいただけるデマンドタクシーとなるよう努めてまいりたいと思っております。</p>
--	-------------	--

<p>栗田町長</p>	<p>なお、まんのう町の商工会等におきましても、顧客サービスの一環としてデマンドタクシー利用券を活用することも考えられておるようでございますのでよろしく願いをいたしたいと思います。</p> <p>最後になりましたが、医療費の直接支払いの導入についてのご質問でございます。まず、乳幼児医療費助成事業の香川県下の状況であります。6歳未満を対象としております市町が12、就学前までの対象市町が2、7歳未満としておるところが1箇所、9歳未満としておるところが1箇所、中学校卒業までというのはまんのう町のみです。また、給付方法につきましては17市町すべてが償還、現物の併用といたしておるところであります。合併協議の中で子育て支援の観点から従来6歳未満を対象としていたものを義務教育終了時までに対象年齢を拡大したところではありますが、この拡大部分に対する町の財政負担は年間約2000万程度となっております。香川県下では唯一まんのう町のみが手厚い制度であり、子育て支援策として喜ばれておるところでございます。三好議員さんのご指摘は、この拡大部分を現物化にということであろうと思います。確かに利用者の利便性は高くなりますが一方、町の財政負担が新たに平成20年度ベースの試算で1000万円程度増えることが予想されます。このようなことから現在の厳しい町財政を考えれば償還方式を選択することが適当であろうと考えておりますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。</p>
<p>末武議長</p>	<p>三好勝利君。</p>
<p>三好議員</p>	<p>3回目となりました、非常に中々厳しい財政の中でやり繰りしておるとい町長の答弁もあるし、ただ私が申し上げておるのは町長も何もしたらん職員も何もしたらんという意味じゃなく勘違いしないように十分やっていただいております。ある職員にはノイローゼにならんように頑張れよということまで私は言っております。それぐらい仕事している職員もおります。はっきりいって。我々のような浅学非才のものはノイローゼにはなりません。それだけの能力はありませんので。その点は心配ないんですけど。余分ですけど。まあ、そういうこともひっくるめて、やはり合併したからにはやっぱり、今、申されてましたように全国また香川県に先駆けてやった事例が十分わかっております。なおかつ、一部に不合理な点ができておりますので特に選挙関係なんかだったら我々は選んでいただく身なんです、行政の執行部は町長以下はほとんどないんですけど。やはり代議士の先生、県会の先生もお願いしました。あんたらみんな選んでもらう立場でしょうが、選んでもらう立場だったら出来るだけやはり参加しやすい、投票しやすい方策をとるのが懸命でないですか。私はそのように申しました。それに関して、おまえの言うこと馬鹿みたいなことを言うなということは一人もおりませんでした。非常にやりにくいと思えますけど再度、他町は他町、本町は合併しても良かったのという点をやっていただきたい。それと、あのCO2、温暖化ですけど、これも何回も申し上げますけど例えばですよ、今日お集まりいただき人間これ、すべて39度から49度の熱が出たと思たら、おそらく議会閉鎖してお医者さんへととぶでしょう。一般の温度が3度から4度平均で上がっても、そなん自然の分で木は枯れへんわ、水さえやっとならば心配ないわと簡単な安易な考えが今、</p>

三好議員	<p>やれておるのは一番危険だと。人間は自分自身で、子供さんでも誰でも今ごろ犬や猫が熱が出ても病院に走る時代ですよ。我々も39度になると即、医者に行って点滴を打つなり薬なりもらいます。但し、自然環境の3度、4度というのは何でも無いじゃないかと言うのが1番これが恐ろしいという現状が出ておりますのでその点も十分くみとりおきいただきたいと思います。それと子育て支援策ですけど医療費の点はこれで4回か5回かになりましたけど、あと1、2年はこれまあ無理でしょう。そういうことでまた、その内にできるでしょう。そういう中で例えば、極端な話、先ほど申しましたように医療費がそういう形でやるならば保育所から中学校まで全部無料にせと、極端に言えば。それぐらいのやっぱり町の財産ぶち売ってでもやってやるというぐらいの度量を持っていただいて、やはり全国に発信していただきたい。やっぱりそれぐらいの気構えでないとやはり少子化から脱皮することができませんよ。本当に金がかかるわけですから、塾に行ったりピアノへ行ったり、あげくのはてには、今日はバレーの練習や夜間の剣道の練習じゃ、野球の試合じゃ、親はまいまいしとる。そういう中で先ほどの選挙ですけど夏休みにやろうとしとん。夏休みやったら若いお母さん方は父兄は全然いきませんよ。はっきりいって。そななとこいうか。子供のことが精一杯ですから。その辺もやっぱり中央の偉い官僚、やっぱり役人、政治家の方は十分考えて私はやっていただきたいとそういうふうに思っております。もう、時間が来たので答弁は結構です。それを十分参考意見として今後、町長さんあと僅かですけど思い切って頑張ってやって下さい。本当、な、お願いしときます。頑張ってくださいとんは十分にわかっておりますから。より以上に頑張って残されたこと、頑張ってやって下さい。以上で終わります。</p>
末武議長	<p>以上で14番 三好勝利君の発言は終わりました。</p>
藤田議員	<p>引き続き、一般質問の通告がありますので、これを許可いたします。9番 藤田昌大君。</p> <p>9番 藤田昌大です。議長のお許しをいただきましたので通告に基づき町の活性化のために私的に考える課題で主要施策について観光、農業、過疎化対策、3点について町長の所見をお伺いしたいと思います。明確的、町民、職員がですね、元気が出、そしてまた希望が持てるような回答をお願いしたいと思います。そこで質問に入ります前に現状の政治分析をちょっと行いたいと思います。今、三好議員が解散は望んどらんといいていますけど、私的には町民は解散を望んでると思っておりますので、そういった立場でですね、ちょっと政治分析をしておかなければならないんでないかなと思っております。と、申しますのは今日的な町民の生活、白川議員が言いましたように介護保険とか、そういった部分でですね、平等、応分の分担という名目の中で所得税の定率減税が廃止されたり、福祉切捨ての中でですね、介護保険制度を作ってそれに味を占めた小泉内閣の中で後期高齢者医療制度の発足、そしてその中でまた、医療費の負担増を大きな支出を町民はしいられております。これらの現状は4年前当時の小泉内閣が郵政民営化法案を衆議院で可決し、参議院で否決された時に何を血迷ったか衆議院を解散し、その中の暴挙でですね、劇場的なパフォーマンス</p>

藤田議員	<p>ス政治を作り、国民を欺きながら郵政民営化を焦点のみに国民を惑わした結果、自公が3分の2以上を占める議席を得てその中で矢継ぎ早に谷森議員のいう新自由主義に基づく政策である大企業や、アメリカの言いなりになる銀行資本本位の弱肉強食の社会を作り、大きな保有財産を企業にもたらしながら、片やアメリカの金融破たんが発した時には世界同時不況の中で労働諸法の改悪をした中、いわゆる派遣法でありますけれども、派遣法を盾に国民の働く権利を奪い、そして結果は年間3万人を上回る自殺者が出ている日本の国の現状になっております。その大きな凶器は労働者派遣法といわれる企業が何をしてもいい、すなわち新自由主義におけるですね、労働者を犠牲にして働く国民を犠牲にした大きな中、政治の流れでないだろうかと思っています。こういった大きな問題は指摘されますとすぐ、麻生内閣の誕生後ですね、ばらまきの、（・・・）やかましいな。やかましいな、あんだ。</p>
末武議長	<p>藤田議員、通告に基づいて。</p>
藤田議員	<p>通告に基づいて。だから政治情勢を判断せななんだから言えんから言よんです。僕は。そういった中でですね、今の情勢が行われて来ておると思います。ですからその厳しいですね、財政状況の中で今、麻生内閣におけるばらまきのですね、予算執行がなされているところでもあります。例えば定額給付金というのはですね、大きな資質の問題ではなかったかと思えますし、そしてまた近年ですね、大きな部分がやらされていると思えます。その主たる目的が、行政改革をした目的がですね、本来ならば地方分権の推進であったはずなんです。しかし、現状はですね、官僚主導の霞ヶ関中心の地方切捨てのオンパレードにしかすぎない。私はこういうふうに認識しております。そこで従来の民主主義政治の原点に帰り地方政治の原則に則り住民が主人公の政治にと、過去にも私は一般質問の中で中心的に取り上げ、共同の社会づくりを提案してまいりました。また、職場においてもですね、職員組合とのルールに基づく団体交渉権、その中でですね、職員のやる気と責任感を持てるような職場作りを提案してきたわけでありまして。そこで町民、職員が将来展望を持てるよう、今すぐ必要であろうと思われる3つの施策を質問いたします。第1には観光施策、第2には農業施策、第3にはですね、過疎地対策の3点について町長の考え方を伺いたしますので明解な回答をお願いしたいと思います。まず1点目は観光施策についてであります。ご存知のように今日の7月号のまんのう広報に載っておりましたけれども、まんのう町観光協会が発足しておりますけれども現状はどのような組織になっているのか、まず伺いたいと思います。そして観光協会の方針は何を主に行っていくのか、ということであります。私は従来よりまんのう池周辺整備の特別委員会でありましたようにその中の5ヵ年計画が今回のですね、予算にどのように反映しているのか従来よりまんのう池を中心とした活性化については一切目新しい動きがみられません。なぜ、満濃池を活用しないのかお尋ねしたいと思います。従来にもかりん亭、かりん会館、かりん日曜市の有機的な協力の中で満濃池の活性化を是非図っていただきたい。そういうことで主張してまいりました。そして私も自らがコイネットの1員として活性化施策の協力をし、そして参加もしてまいりました。勿論、周辺整備やを会員の皆さんと共に</p>

	藤田議員	<p>してまいりました。当局の協力は全く得られたとは思っておりません。関係者は失望すら感じております。かりん亭の職員の皆さん、そしてまた日曜市の皆さんがですね、本当に町が何をやっとなやと言う声を非常に聞きますので明解な答弁をお願いしたいと思います。</p> <p>次に農業施策についてであります。まんのう町は大平内閣が提案した古い施策でありますけど田園都市構想というのが昔あったと思うんです。そのことがですね、まったく当てはまる地域でないかと思えます。満濃池の恩恵を受け県内では水事情は最高の地域であったはずと思えます。しかし、近年の三好議員がいう地球温暖化による気候変動で農地の維持管理は大変な状況にあります。今こそ農業従事者との細かい意見交換を実施しながら、将来あるべき姿を長期的に決定すべきでないでしょうか。そのためには農業従事者との意見交換やそういったものを現状どのように取り計らっているのか。そしてまた今後、どのようにして行くのかお伺いしたいと思います。町内にはうどんをはじめとする、羽間のいちじく、かりん、川原議員の地元の春日米、そしてまた仲南のひまわり、琴南のそば等、特産品と思われる生産物がありますけれども、それぞれの認知度は県内でどうなっているのか。今後どのようにして行くのか。お伺いしたいと思います。ひまわりについてはこの広報にも載ってましたようにひまわり祭りをするようがありますけれども、それが全体的な部分になるのか、ならんのかという大きな問題、そしてまた仲南産直市ではですね、外販部を設けて三越とかイオン坂出店へ出品していると聞きます。まあ、そういった努力についてですね、町長がどのように考えているのかお伺いしたいと思います。広い町内の地形や実情にあった分析を行いそれぞれの担当課が連携を密にして、補助金の有効利用、活用を新たに起こすことが重要ではないでしょうか。それぞれの係りの中でですね、研究して新しい産業を起こす場合の補助金とかをですね、是非研究して地域の住民にお知らせ願いたいと思えます。農協が農家を捨てた、今、農業委員会を中心として各地で遊休農地をゼロにすることを目指し環境保全と一体となった問題解決を行い、地域の活性化になると思いますが、町長全般的にどのように考えているかお伺いしたいと思います。</p> <p>最後に過疎化対策についてであります。限界集落といわれる集落の対策の現状はどのようになっていますか。合併後、光ファイバー通信の導入し過疎地といわれた集落についても、町全体的に基本的には大きな生活基盤の整備の基本が図れたと思えます。しかしながら、それを有効活用をどのようにしているのか、して行くのか、お尋ねしたいと思います。そして具体的には豊かな自然と交通の利便性を活用した整理を図り、山村留学や里親制度による児童、生徒の受入を行いそしてまた前にも提言しましたがけれども、それぞれの集落における団塊世代の受入住宅等ですね整備をする。そういったことがやはり過疎地の大きな活性化の要因になるかと思えます。当該の意見交換を実施し、それに向けた施策でどう地域に提案して自らが意見を聞く。そういった姿勢が大事でないでしょうか。現状の施設の整備や地域の特性を生かすため新たな整備も大胆に考えていただきたいと思えます。そして、</p>
--	------	--

	<p>藤田議員</p> <p>末武議長 栗田町長</p>	<p>この前も新聞に載ってましたけども大学の音楽サークルが受け入れられるような設備も出来たやに聞きますけれども、まだまだ、不十分でありますので本当にそういったところはですね、積極的に合宿に来るような設備も僕は作ってもいいんじゃないかと思っています。そして都会の若者を参加させ、そして定住促進させるイベントも色々考えてみたらいかがでしょうか。何もしなくても行列のできるうどん屋が町長もご存知のように2軒、3軒、まんのう町にはあります。そしてまた、利用度の高い、土日のかりんの丘公園の利用状況、そして満濃池のですね、来訪者の実態をみますともうちょっと1時間、2時間おれる設備を作ってくれないかという部分があります。そういった町の現存する観光施設を、そしてまたその中でですね、過疎化に拍車をかけるのではなくて、過疎化を解消するような状況を是非、町民と一緒に執行部一丸となって議会も協力したいと思いますのでそういった生きがいのある、まんのう町にできるように期待して質問をしたいと思います。以上で終わります。</p> <p>町長 栗田隆義君。</p> <p>ただ今の藤田議員さんの質問にお答えをいたします。まず、第1番目の観光施設、満濃池を中心とした活性化をどのように考えておるかというご質問でございます。満濃池の湖畔にあるかりん亭は、ご存知のように産業経済課が管理しながら生活研究グループに運営をお願いいたしておるところでございます。また、かりん会館は、満濃池コイネットやまんのう町国際交流協会などと連携しながら産業経済課が管理をいたしております。また、町内にあふれる自然、人情や出会いなど全てを観光と位置づけた、まんのう町観光協会の立上げを準備しており、その中でかりん亭やかりん会館、かりん広場、ほたる見公園を含めた一体的な管理体制を検討中でございます。それと、昨年度より実施して好評を博している満濃池まちあるきが今年度香川県全域を舞台として、09香川まちめぐり てくてくさぬきの中で一環として実施されております。この満濃池まちあるきを計画・実施しております。ボランティア団体のまんのう池コイネットをはじめ、他のボランティア団体と連携を深め模索しながら満濃池の新しい発見や歴史、自然、文化に親しむ観光拠点づくりをし、活性化を図りたいと考えております。</p> <p>次、2番目の農業施策 農業従事者の意見交換、奨励品、特産物の開発や品目の選定、助成、指導の施策についてのご質問でございます。まんのう地域担い手育成総合支援協議会が設立されており、会員につきましては、町、農業委員会、JA、普及センター、まんのう経営者協議会、町土地改良区で構成されております。協議会は、国の担い手アクションサポート事業の交付金を受け、構成員のチームによる毎月の会議を開催して、認定農業者の育成、集落営農の組織化、法人化の推進などの事業を行っております。また、担い手意見交換会等を開催しており、その他の農業における課題についても協議をいたしております。特定作物振興の町単独助成については、ひまわり、そばに対して助成を行っており、営農集団等に対し新規特産物にも助成をしております。</p> <p>次、3点目の過疎化対策についてでございます。過疎対策事業についてでございます。国の過疎対策につきまして、これまで3</p>
--	----------------------------------	--

<p>栗田町長</p>	<p>度の過疎対策のための特別措置法が作られ、各種の対策が講じられてまいりましたが、平成12年4月1日、平成21年度までの10年間の時限立法として、過疎地域自立促進特別措置法が施行されました。過疎地域自立促進特別措置法は、人口の著しい減少に伴って地域社会における活力が低下し、生産機能及び生活環境の整備等が他地域と比較して低位にある地域を過疎地域ととらえ、住民の福祉の向上、雇用の増大、地域格差の是正という従来からの目的に加え、過疎地域に対し、豊かな自然環境に恵まれた21世紀にふさわしい生活空間としての役割を果たすとともに、地域産業と地域文化の振興等による個性豊かで自立的な地域社会を構築することにより、我が国が全体として多様で変化に富んだ、美しく風格ある国土となっていくことに寄与することを期待し、策定されました。まんのう町におきましては、合併後、旧琴南町の区域を過疎地域として、まんのう町過疎地域自立促進計画、平成18年から21年を定め、過疎債を活用し簡易水道拡張事業、前の川でございますが、等の事業を実施してまいりました。今後におきましても、まんのう町総合計画との整合をはかりつつ、過疎対策事業に取り組む必要があるものと考えております。現在の過疎地域自立促進特別措置法が本年度末で失効することから、今、新たな過疎対策法制定に向けて、過疎指定団体においては国関係省庁等に対し積極的な要望を行っているところでございます。</p> <p>続きまして、限界集落対策についてであります。基礎的条件の厳しく維持が困難な集落においては、集落の自治、生活道路の管理、冠婚葬祭など、共同体としての機能が急速に衰えてしまい、やがて消滅に向かうとされている状況にあります。いわゆる限界集落といわれるものでございます。このような状況下にある集落を含め、主な過疎対策として、まず、本来の自治会機能を補完する対策により、地域活力を再生させる対策が考えられます。これは、1番に、自治会合併又は連合自治会組織による相互支援体制の推進、2番に、町外に在住する地域出身者が定期的に故郷に帰り地域支援を行う制度、3番に、移住による新たな定住者を受け入れる対策などが考えられます。次に、全町共通の課題でもありますが、地域で生活されている住民の皆さんの不安を解消し、安心して暮らせるまちづくりの推進が必要とされています。これには、生活道等の維持修繕、路線バス維持、デマンドタクシー、福祉タクシー助成などの交通対策、安定した生活用水の確保、へき地診療所など医療の確保、葬祭用具貸出運搬など自治会支援、光ケーブル活用した福祉サービスなど、すべてではありませんが、以上のような対策がございました。</p> <p>次に、山村留学及び里親制度の件でございます。山村留学は、さまざまな自然体験や農山漁村の暮らしを体験することによって、子供たちの生きる力を育むことを目的としていますが、過疎地域の人口減に伴う児童・生徒数減少に歯止めをかけ、学校の適正規模を維持することや、地元の行事・祭り・スポーツに参加させ、地域の活性化を図るといった受け入れ側の効果も期待されています。まず、山村留学及び里親の取り組みについては、まず、1番、留学先となる町内の小・中学校の確保が必要とされます。校区内から通学する児童生徒とは異なり、学校側、とりわけ先生方には受入した子供さんに対する山村での生活指導やケアをお願い</p>
-------------	---

<p>栗田町長</p>	<p>することが必要であり、学校の理解と協力が不可欠であると考えられます。次に、里親、留学センターの確保でございます。山村留学生の生活の本拠となる里親、寮の確保が必要であり、事前に受け入れしていただける里親を確保しなければなりません。これには、里親のほか、地域で支援する体制を作っておくことも必要でございます。そして、次に長期に子供さんをお預かりすることから、しっかりとした運営主体を作っておく必要がございます。全国的には、教育委員会又教育委員会が主導する運営組織、学校法人、PTAや自治会などが支援する学校区内の任意組織があるようでございます。受け入れする学校との連携から教育委員会が主導的であるケースが多いようでございます。実施主体については、教育委員会と十分協議する必要があるものと思われま</p> <p>次に、大学サークル、合宿の受け入れでございます。町内には、スポーツ施設として、かりんの丘公園。ここには野球場、サッカー場、トライアルランド、多目的グラウンド等がございます。サンスポーツランド、ここには野球場、テニスコート等がございます。健康ふれあいの里、ここには野球場とテニスコートがございます。また、研修または宿泊施設といたしましては、かりん会館、国営まんのう公園のキャンプ場、塩入温泉、ふれあいロッジ・研修館、エピアみかど・みかど温泉、健康ふれあいの里のキャンプ場、ビレッジ美合館・等々がございます。これら施設の実績といたしまして、仲南振興公社が管理するふれあいロッジ・研修館と旧仲南東小学校を利用した県内大学剣道部、香川大学の合宿、ビレッジ美合館さんの大学テニス部の合宿受け入れなどがござい</p> <p>ます。施設利用につきましては、町観光パンフレット、ホームページでも紹介しているところですが、各施設の利用率向上を図る面においても大学等サークルの合宿利用は推進すべきと考えております。町有施設の多くは、指定管理制度により指定管理者に管理させておりますので、指定管理者に対して大学等のサークルに利用を働きかけたいと思います。特に、合宿等の誘致にあたっては、人脈による紹介が極めて有効と思われま</p> <p>すので、議員各位におかれましてもご協力・ご支援のほどをお願いを申し上げます。</p>
<p>末武議長 藤田議員</p>	<p>藤田昌大君</p> <p>はい、再質問させていただきます。懇切丁寧な答弁についてですね、町長に敬意を表したいと思いますが、まず、それぞれの部分でですね、再質問を行いたいと思います。観光施策の中の満濃池活性化でありますけれども、僕もコイネットの一員でありますので勿論、先般19人が参加した、てくてくまちあるきの分を十分承知しておりますけれども他と比べればですね、物凄く少ないんですよ、やっぱり自然だけということと、食べ物がうどんだけやいうんですかね、やっぱり他のまちあるき、例えば宇多津とか、あっちへ行けばですね、おいしいお菓子がついてきたり、そういった部分でですね、費用も重なりますけれども、だいぶやっぱりまだまだ認知度についてはやっぱり満濃池だけという感じですね、弱いようであります。しかしあの馬場さんですね、すばらしいうどん打ち体験がですね、やはり認知されていながらですね、残念ながらかりん会館の職員がですね、協力体制がよいよ、</p>

藤田議員	<p>なくってですね、かりん亭を開業していきながら、今やらないかんのですよね。そういった意味では非常に苦勞してます。そういった意味ではですね、ぜひもうちょっと細工をしていかな、いてもらわなければならないのかなと思いますし、設備そのものがですね、ボランティアガイド、研修、ちゃうボランティアがやっじょる受合室がですね、3年も4年も前に出した紙が色あせて立ってます。そして、なんか建物自体、アリが入っているような気が、シロアリが入っているような気がしますんで、いっぺん点検していただけたらと思ってます。</p> <p>もう1つは5ヶ年計画、10ヶ年計画のですね、5ヶ年計画の初年度だろうと思うんですね、満濃池総合計画の。そしてその周辺の入り口なんかをですね、生垣をのけて改善して行こうという、たぶん計画だったと思うんですね。その中でもう1つは、様子が変わったんが、満濃池の町道五毛線が全面開通するよということができました。それと含めてですね、やはり、若干情勢が変わるかと思えますけれども、それらのですね、有機的な結合、例えば、町道五毛線が開通すればですね、上の駐車場に大型バスが来れます。それとのアクセスをどう考えていくのかというのがありますし、かりん広場等のですね、日陰がないということで、こないだ無理を言って係りに承諾をもらってですね、ヤマモモの木を若干枝打ちさしてもらってですね、整備をしました。その後ですね、やっぱりあの、その広場を使いやすくするためにやっぱり、担当する課がですね、もうちょっと現地を調査していただいて、どうしたらですね、かりん広場を活用できるか、そしてまた、色んなとこをですね、有機的に動かせるかいうのをですね、もっとやってもらいたい。</p> <p>もう1つはですね、せっかくかりんの丘ができて、一直線のルートができました。ぜひ、あの聞くところによりますと、満濃池を利用したあれが全然ないんで、もうマンネリ化したまんのうフェスティバルをどなにかしてくれやと言う声は、非常に多いと聞きます。まあ、これ、苦勞してしよる人には大変失礼な感がありますけれども、やはりあの花火だけやという部分、その部分にすればですね、位置的には非常に色んなことができる、ステージも持ってると思いますので、ぜひ満濃池をもうちょっとPRする部分、アイスクリーム屋のおっちゃんに言わせますと、子どもが全然このやがな、子どもが来たらアイスクリームが売れるけれど、大人ばかりではアイスクリーム売れませんということもありますのでですね、そういった施策をぜひ考えていただきたい。</p> <p>そして、かりん日曜市の問題でありますけれども、もう解決したんですね。今日は出さなんだんですが、解決したようでありますので言いませんが、ただ、かりん日曜市についてはですね、やはり僕も先週、栗田課長とも一緒になりましたけれども、8時に行ってですね、やっぱり様子見せてもらいました。やはり、もう7時、8時がきたらですね、それを目当てに来ている人がおるんです。現に。その中でこれないんな、あれがないんな言うて、お客さんとの交流がものすごく進んどんですね。それをやっぱり町長どう考えていってですね、本当にやる気があるんか、ないのか、今年度いっぺんぐらいはですね、ぜひやっていただきたい。そ</p>
------	--

<p>藤田議員</p>	<p>ういう問題定義してください。せっかくかりんの丘公園をしておりますがですね、係がイベント提案したら全部カットされてしまったという声が聞きましたんで、やっぱりそれなりのですね、集客能力があるところについてはぜひ観光施設としての部分をやっていただきたいと思いますし、琴南地区、特に僕が一番懸念しとんのは琴南河川敷公園なんですね。あれ従来から、ゴールデンウィーク以降の土日なんかもの凄く多いですよ。ほんでまたこの夏ですね、盆の期間に無茶苦茶多いと思うんです、お客さんがね。その部分で無料でやってるでしょ。その辺は僕非常に町は財政を出すばかりで、維持管理に補修に、その代わりなんちゃ落ちんのですよね。それはやっぱり県と相談して、やっぱりちゃんとするべきではないかと思うんですよ。当然、せめて掃除の金ぐらい、草刈の金ぐらい出せやという部分のですね、ことはできるはずなんです。それは県と話したらいけるはずなんです。それを全然、全部逃げよるからいかんのです。それとやっぱり、せっかく来てくれた人たちにですね、やっぱり琴南地区の川の川遊びをするとこあれが一番相応しいとこなんです。子どもたちがいっぱい川に入ってますよ。そのことを考えればですね、もうちょっと琴南支所がですね、係と話していきながら無理のない程度にですね、活性化することをぜひお願いしたいんですけれども、長町どう考えているかちょっとお尋ねしたいと思います。</p> <p>そして二点目には、農産物の関係であります。やはり、それぞれのですね、地域回らせてもらいますと、ちっちゃい集落のですね、営農指導とか農業指導したらどうかということは、僕ら感じてきました。例えば、俗人的な名前申し上げられませんが、大谷川地区ですね、今里山から農地がですね、ものすごく整備されています。そら、役場の職員の退職された方が一生懸命やっているそうです。そしてその中で、どういった産物を作ろうということを色々研究しながらやっていますし、琴南のですね、職員とも話しながら、例えばヤーコンのですね、根だけでなしに茎も葉っぱも売れる状況があるそうです。やっぱりそれらについてはですね、ぜひそういった研究していきながら、販売先ともですね、やっぱり連携する、それはその地域のですね、人間の意見を聞いたらできることですから、細かくやっていただきたいと思います。そしてまた、僕らばっと思いつくだけでもえすね、満濃地区には江畑地区という集落がありますよね。やっぱりそこは、小野課長おりますんでちょっと言いにくいんですが、やっぱりね、あそこの孤立した集落的な部分があるので、農業集落、農家をどういう作物を作ったらええかということですね、やっぱり話していきながら、地域の人と聞く、そういったことが重要だと思うんですよ。だきん今、琴南の蕎麦だとかヤーコンだとかそういったものがありますよね、それぜひ特産物をみんなで作って行って、なんでもかんでも米や野菜作り言うんと違うんですよ。やっぱり、米には相応しい米があると思いますし、野菜なら野菜、そしてまた、根菜とか薬草なんかですね、非常に栽培に適した地域だと私聞きました。満濃地区の山の方面についてはですね。そういった部分もぜひ話し合いながら開発していただきたいなと思ってます。やっぱり一番ええのは根菜類でないかなと。そういう風な気がしますので、農業指導そしてまた新しく受け入れされる方</p>
-------------	--

	藤田議員	<p>についてもですね、そういった農地の保全を含めながらですね、農地を貸していったり、そういったことを含めてですね、ぜひ農業施策をですね、考えていただきたいと思います。</p> <p>最後の部分については、非常に懇切丁寧な答弁をいただきました。山村留学について、いや里親制度についてはですね、具体的な受け入れであるとか、そういった部分が必要であるし、その人間的なつながり、例えば剣道の合宿やったらですね、仲南地区の剣道指導者とのやっぱり学校との連携ですよ。例えばその行き先の。そういった部分を大分丁寧に受けましたので、ただ、僕お願いしたいのは自治会の人たちに対するですね、問いかけだろうと思うんですね。例えば、町政懇談会の中で色々意見言われたと思うんですね。意見は真摯に受け止めて、じゃあこっちからもですね、じゃあどうしたらいいんですかという問いかけもですね、していきながら、町については職員やみんなと話しながらですよ、できることをみんなでやってみようやと、そういう発想の転換をぜひお願いしたいと思うんです。この行政、この分ですね、事務事業評価の中を見ますと、AからBになつとるとこや色々ありますよね。そういった部分の見ましたら、やっぱりこの評価システムの目的いうところにですね、最後の欄に今後の住民参画と共同のまちづくりに資することを目的としますと書いてありますよね。たぶんこれにつきると思うんですよ。なんぼ、どんなですね、立派な文章書いても、やる気がなかったらなんちゃにならんということですね、そのことをぜひ、僕は町長せつかく若いんですから、共に汗を流すということは僕は可能と思うんです。町長は。ね。ちょっとよぼよぼの人になったら藤井町長が出る言いよったけど、オフレコになりますけど、80でまだ出る言うて出てましたけども、それを考えればですね、まだまだ希望が共にやる、共同のですね、議員も共にやれると思います。そういった立場でですね、町長が先頭に立っていきながら、ジェスチャーを見せてもらって、ぜひこの人にやったらついていったらいいよということをですね、町民は求めていると思うんですよ。職員も。だから信頼できる町長のあれをつくっていただいでですね、ぜひやる気になるようなですね、回答をお願いしたいと思いますのでよろしくお願ひします。</p>
	末武議長 栗田町長	<p>町長、栗田隆義君。</p> <p>藤田議員さんの再質問にお答えをいたします。満濃池周辺の観光施策ということでございますが、藤田議員さんからもご指摘がありましたように、ほたるみ公園から続いております五毛線が21年度、22年度2ヵ年でほぼ全部開通する予定でございます。そういったことで、今までの満濃池周辺整備のまちづくり交付金での中長期的計画は、あくまでも五毛線ができないというようなことを前提に計画をいたしておりましたので、今後、この五毛線が全面開通した後のことを想定して、もう一度、まちづくり交付金を使った中長期計画、考え直して、見直しをかけて新しい計画を作っていかなければならないというふうに考えております。その中には、勿論、町道五毛線を通して国営公園、またかりんの丘公園、またまんのう町のかりん公園、また県の県立自然公園です</p>

	栗田町長	<p>か、4つを結ぶルートにもなるわけでありまして、ちょうどかりん会館の上には駐車場も、今度できるということで整備をしようと思っておりますし、もう少し上へ上がりますと、中核生きが施設をやるうとしておりました、事業をしようとしておりました町有地がかなり多く残っております。そういったところへ、できれば計画の中ではレストセンター的なものを建てて、そこへ大型バス等は、駐車をし、その展望台から満濃池を眺められるというような観光地にもしていきたいと考えております。満濃池土地改良区とも色々話をしておりますが、満濃池の堤防をまあ、駐車場にするのは、まあ今は認めていただいておりますが、将来的にはもうあそこへはバスの駐車場にはしたくないということもございますので、観光バス等の駐車場はかりん会館の上、五毛線沿いに今度作っていききたい、まあそういったことで、この満濃池周辺整備につきましては大きく見直し計画をして、皆さん方とまた一緒になって、どういう計画にしていくか考えていきたいと、まあ、このように思っておりますので、よろしく願いいたしたいと思っております。</p> <p>また、藤田議員さんご指摘のように琴南の河川敷、どきどき広場ですが、これは特に夏になりますとキャンプをされる方、また川遊びをされる方、大人から子どもまで大勢の方が、来場していただいておりますし、9月の第1土曜・日曜には、バイカーズミーティング、これが今年も開かれるようございまして、大勢のお客さんが来られるということでございます。ここで、なんとか料金を取れんかというようなこともありますが、そういったことも今後検討していきたいと、まあこのように思っておりますので、どうぞよろしく願いいたしたいと思っております。</p> <p>また、農業施策につきましては、まんのう町に似合った根菜類等が、非常にまんのう町の土地にあっているんじゃないかというような、ご指摘もございました。そういったことで、今後も生産者の方々と共同して色んな特産物、農産物の開発をしていきたいと思っております。また、江畑地区につきましては、今後、中寺廃寺跡への登山道の入り口にも江畑がなっていくこととなりますので、そういった面でも開発、また色んな施策の目玉にしていきたいなというふうに思っております。</p> <p>また、限界集落等につきましては、藤田議員さんのご意見、色々取り入れさせていただいて、今後進めてまいりたいと、このように思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。</p>
	末武議長 藤田議員 末武議長 藤田議員	<p>ちょっともうあんまり長いけん、ここで3時半までもう・・・</p> <p>ちゃう、ちゃう、2、3分ですぼっと止めますんで、はい。心得てますから、心配せんといってください。</p> <p>藤田昌大くん。そう言うたら、そう言うじゃろう思うて言うたん。</p> <p>よう言うわ。だいたい私も時間配分しながら質問してますんで。明快な答弁とですな、今後の希望に持てるような、あれだったと思っております。ですから、ただ行って心配なのがですな、上へ止まりますと、神野寺の問題がありますので、それらも踏まえてです</p>

藤田議員	<p>ね、神野寺せっかくトイレね、作ってますので、それはもうですね、やっぱりご不便をかけんようなアクセスをぜひお願いしてですね、満濃池周辺については、ぜひ今年度は一遍何かはやっていただきたいと言う係りの方へお願いしときたいと思います。</p> <p>そしたら、あの2点目のですね、農業施策については、やはり本当にですね、やってる人と話をしてください。特にですね、僕、必要あらば、お話ししますので、やっぱこんなもどうやろうか、どうやろうかいうのをみんな模索してるんですよ。その素晴らしいもんはぜひやっぱり取り入れるべきだと思います。</p> <p>土器川の分についてはですね、せっかく作ってますので、銭取れとは言いにくいかも知れませんが、今後の方向性としてですね、やっぱり、県として維持管理する町の立場をですね、理解していただいてちょっと改善せんとですね、のうずるになってるというところが一番心配なんですよ。そして、春には桜が咲いて、綺麗な水辺になりますし、夏には今からいいところになるだろうと思います。町長もだいぶご存知やと思いますんで、やっぱり琴南支所ですね、持出しばかりでなしに、やっぱり利用者の応分負担を求めるんはですね、当然のことだと思いますので、それをもう一遍色々な研究してぜひお願いしたいと思います。んだら、5分残ってますんで終わります。</p>
末武議長	<p>以上で、9番、藤田昌大君の発言は終わりました。</p> <p>議場の時計で、3時半まで休憩いたします。</p> <p style="text-align: right;">(休憩 15時16分)</p>
白川年男議員	<p>休憩を戻して会議を再開いたします。</p> <p style="text-align: right;">(再開 15時30分)</p> <p>引き続き、一般質問の通告がありますので、これを許可いたします。</p> <p>4番、白川年男君。</p> <p>4番、白川です。失礼します。</p> <p>私は、かりん温泉について、これは、町長の方からも9月で閉めると、そういう各委員会で話も出てますが、その辺について再度私もあの辺色々人に呼ばれたり、また話を聞いた中で、私なりに今後どういうふうにかりん温泉をもっていったら、よいかとそういうことについて、通告に従いまして、一般質問させてもらいたいと思います。</p> <p>6月の総務、教民、建設常任委員会で、かりん温泉の収支状況等の報告書を提示し、町長より9月をもって同温泉を閉鎖するとの発言を聞き、地元関係者、ましてや利用している人たちは、嘆いている人もたくさんおります。そして私のところへも、どういうふうにしたら良いだろうかと、色々来る人もあり、また、私も呼ばれたりもまたしました。私もそこで、企画課の方へ行って、色々資料ももらいまして、先程町長の方へは、ちょっと細々した数字的なものを出しております。そして、成果表の中で、最終損</p>

<p>白川年男 議員</p>	<p>益表と、琴南、それから仲南の塩入温泉、そしてかりん温泉と、そして、厳密に、そら確かに、琴南、えーと、仲南公社あの辺も、減価償却とかそういう色々なことがあるので、一概にはおおまかな結論はどうかとは思いますが、18年度においては、琴南の、塩入の、えーと、琴南が、町の予算の方から1千200万程、それから、仲南の方で修繕分として1千700万ぐらい、補填しております。そして、かりん温泉は18年度は赤字の2千900万として、19年度においては、琴南全体でマイナス900万、それから仲南の方がマイナス1千100万、そしてかりん温泉は、みなさんご存知、資料を持っておるとは思いますけど、マイナス2千600万と、そして本年度、20年度、こないだ資料に基づくと、琴南の方がプラスにはなってますが、これは積立金の方から2千万程補填しとるんで、比較するんであれば、補填する前のマイナス2千万ぐらいと、それから仲南の塩入の方がマイナス440万と、それから、最終的なかりんがマイナス3千100万とそういう大きな赤字は出ております。だからまあ、そこで、琴南公社は年当たり750万程、積立言うんか町の方へ積立をしておると、仲南公社は約売上の1割をそれぞれ町へ家賃と言うか積立金として流用しているのはなかなか良いことだろうとは思いますが。そして、20年度で、最終の20年度で、かりんとこの琴南公社あたりを比較すると、かりん温泉の方が1千100万程の琴南よりは赤字が出ておるわけなんです。この件について、かりん温泉建設当時に携わったある人が言うには、かりん温泉はもともとは福祉の向上のために、営利の目的ではないと、赤字が出るのは確かに良くないが、500万から1千万ぐらいは、ぐらいといっても大金ですけど、ぐらいは、介護とか健康維持にも貢献していると、その当時の人も言っていました。現に私の試算でも、町長の方へもちょっと資料をお渡ししとるが、400万から500万ぐらいは、かりん温泉のお陰で町の方の色々な健康保険とか介護保険の節約が見込まれとんでないかと。そして、後400万か500万ぐらいは、1つのああいう大きい施設を維持管理するには、例えば長炭の公民館、あの辺の費用でも4~500万はかかるとるわけです。勿論、仲南とかあの辺はもっともっとかかるとると思えます。ところで、もし、温泉を閉めた後には、塩入または琴南へ送り迎えもするとは言いが、今現にかりん温泉にバスで走らせている、走らせておりますが、ほとんど乗車している人はほんとは少ないわけです。そして、今かりん温泉に行っている人に聞けば、近くに温泉があるから自分の時間に合わせて、自分の車で行っているようです。勿論、温泉へ行くは、足の便もないと、そういう人は高篠とかあるいは長炭の方からも何人かは行っております。しかし、それは、確かに皆さん調べていただければ、非常に少ないと思えます。そして、住民の要望としては、例え温泉の成分が薄くても近くにこういう銭湯的な温泉を残して欲しいとそういうことなんです。どうかまあ、庶民のささやかな癒しを費用的には確かに大きいかも分かりませんが、まあ残して欲しいと、どういう形で残すかいうんは、今後色々検討していかないかとは思いますが。まあ、その辺について、再度町長の英断をお聞かせ願いたいと思えます。まあ、後この辺についても、保健センターあるいは中讃広域の、このどういうふうな事業に持っていくかとそういうのを併せて答弁願うたらと思えます。</p>
--------------------	--

<p>白川年男 議員</p>	<p>まあ、1つだけ、ある要支援の人、この人が月に5万ぐらいいります。月、1月の費用が。そして、その人が健康増進の方でちょっと私、計算してもらたんですけど、結局、かりん温泉へ20年度6万8千人ぐらい来ております。そして、そのまあ、10人に1人、介護とかたいていの人が、たいていの人言うたら言い過ぎですけど、病院とかあるいは介護、病院にはついとると、つく人、結構まあ、60前後になると病院ついとると思います。そうすると、この6万8千265人、20年度かりん温泉に行っておりました。そして、そのまあ私計算しておるんですけど、12分の1月あたりにしたら12分の1、さらに10人に1人、まあそういう病院なり行ったとしたら、568人です。そしてまあ、健康増進の方で、要支援に、まあこれ実は私のところの家内が大杉病院へ行ったときの領収書とかそういうようなんに基づいて、約その計算によると、それが例えば568人いたとすれば、ざっと4千100万程費用がいるわけなんです。そうすると、その人が果たしてどれだけの、かりん温泉が、のお陰かどうか分かんないですけど、その辺目に見えんところが、必ずやあると思うんです。これまあ、もっといっとんでないかと私は、もっとあの、検証していかないかとは思いますが、それも踏まえて再度まあ、町長の前向きな答弁を願えたらと思います。以上で、私の一般質問を終わります。</p>
<p>末武議長 栗田町長</p>	<p>長町、栗田隆義君。 白川年男議員さんの質問にお答えをいたします。 かりん温泉の今後の方向性についての質問でございますが、ご存じのとおり、昨年よりかりん温泉の存続につきましては検討してまいりました。その結果、先般の各常任委員会においてもご報告をさせていただきましたが、かりん温泉につきましては、本年9月30日をもって閉館させていただくことにいたしました。 かりん温泉につきましては、平成3年度に健康づくり・かりん温泉として建設され、17年が経過したところでございます。温泉施設につきましては、県下の類似施設の増加、また日本経済の不況とともに、入込客の減による影響などにより収益も減少し、一般財源からの持ち出しが続いておるところでございます。先程、白川議員さんから収支決算等についても説明がございましたが、先程のものは、振興公社全体においてのものだと思います。私の方でちょっと調べてみますと、例えば20年度の塩入温泉施設のみについて考えますと、赤字は13万8千円でございます。それでこの塩入温泉の使用料ということで、町の方へ770万収めていただいております。また、エピアみかど、美霞洞温泉、二つあわせまして、755万の赤字でございました。しかしながら、使用料としては750万円、町の方へ収めていただいております。 また、かりん温泉の設備関係につきましても、老朽化により、取り換え等による修繕工事が必要となっており、多額の経費を要することになってございます。これらを実施いたしても温泉としての泉質も無く今後、温泉事業としては収益増は見込めないと考</p>

	栗田町長	<p>えており、採算性には乏しく検討いたしました結果、閉館することに決断したところでございます。長い間、ご利用され愛好していただきました皆様方には、厚くお礼を申し上げるとともに、感謝を申し上げる次第でございます。</p> <p>なお、閉館後における本施設の利用につきましては、早急に検討してまいりたいと考えておりますが、白川議員さんからも質問されています吉野の保健センターにつきましては、ご存じのとおり、本年度の計画において公民館施設として改修することといたしております。このため、保健センターとしては使用できないものと考えております。したがって、先ほど申し上げましたように閉館いたします、かりん温泉を改修し、保健センターに変わるべき施設として、健康づくり、また検診も実施出来るような、健康増進を図るための施設に改修したらというふうに考えております。また、中讃広域で行う予定の健康生きがい施設の設置でございますが、本事業の補助金を活用いたしまして、本施設の改修に合わせて、現在、設置しておる場所において、健康器具の更新、また新たな器具の増設を行い、機能の充実を図ってまいりたいと考えております。</p> <p>また、ご質問のございました小規模な銭湯的な風呂の設置についてでございますが、現時点においては、設置については考えておりませんので、ご理解を賜りますようよろしくお願いをいたします。白川議員さんのところへも色んな方から、色んなご意見が寄せられておるかと思いますが、今のまんのう町の財政状況また、かりん温泉の現状等を説明していただいて、ご理解を賜るよう、白川議員さんからもお話をさせていただきたいなどこのように思っております。</p> <p>しかしながら、かりん温泉を利用していただいておりました住民の皆さん方の便宜を図るために、塩入温泉、及び美霞洞温泉、エピアみかどへ送迎による利用について検討してまいりたいと考えておりますので、ご理解を賜りますようよろしくお願いいたします。</p>
	末武議長 白川年男 議員	<p>はい、白川年男君。</p> <p>だいたい、そういう結論はまあ出ておるのは重々分かってとんですけど、泉質とかその辺が薄いか言っても、今まで琴南とか塩入は2つ目のボーリングとか色々しとるんであって、かりん温泉は、ほとんど一時期少しは直してますけど、そらまああの、どこの風呂でも20年近く使うともう傷んでくるとは思います。ま、そいなので、できたら最小限の予算で直して欲しいと、そしてまあこういう、保健センターとかそういう健康教室とかそういう教室、みんなが集まって、その後、汗を流した後、風呂に入ると、そういうのもいいんじゃないかと思うし、農改センターにそういうのがあったと聞いておりますけど、今の設備をむぎむぎと閉鎖するのはいかなもんかと、そらもう行ってない人はもう3千、何千万の、3千100万もの投資はとてじゃないけど、そういうのはすべきでない、それはまあ行ってない人、利用してない人が言うことであって、行っとる人は、そら送り迎えしてくれても、4時半なり、3、10、昼、長炭の公民館まで出向いていて、して、塩入なり、それにかかっておればそれでええでしょうけども、</p>

<p>白川年男 議員</p>	<p>やっぱりなかなか、ある人曰く、そこまで行てわざわざ琴南の方まで行くというのも、近くにあるからこれ、わしは行きょんじやと、そういう人の意見が多いんでないかと、その辺を結論は出とるかも分からんですけど、この後まあ、もうひとつ今後の方向性いうんを、もう一度、巷の声を聞きながら、どういうな方向へ持っていたらええかとその辺を、再度、再考してもらいたいと。そしてまあ、私これちょっと調べたんですけど、後、まあそらあの、琴南の温泉でも公社、町へ、町の負担として一般財源の方からこれはまあ260万ぐらい、助成したりもしたとるし、そういう色々な公平な行政いうんは、まあこういう、公平で、弱い人の立場、そういうのを考えて、まだ時間もあるとは思う、時間あると、あると言やあるんですけど、そこらもう一度、再考言うんか、それをお願いして、私の再質問に代えさせてもらたらと思います。</p>
<p>末武議長 佐野副町長</p>	<p>副町長、佐野利昭君 白川議員さんの再質問にお答えをいたします。議員さんも大変苦しい立場の中のご質問だと思っておりますし、町長が選択したのも住民の意見を聞きながら、苦しい選択のなかで、財政状況も勘案した中で、今回の閉鎖を決定したわけでございまして、変わるべく施策が現在利用しておる方にマッチしない部分があるというふうなことでございまして、温泉っていうのは当初から健康増進、福祉ということで塩入温泉にしても、美霞洞温泉にしても旧町時代の目的は全く同じでございまして、合併したことによって1つの町に3つの温泉施設があるということ、そして財政負担を軽減するために、指定管理者を指定してその中で経営改善を図るということで、議員もご指摘のように琴南振興公社、仲南公社におきましても、経営改善を図り、町の負担を軽減していくというふうな方策の中でやっておりますので、今回苦しい選択をいたしましたけど、9月30日をもって閉鎖することでご理解をいただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。</p>
<p>末武議長 白川年男 議員</p>	<p>白川年男君。 先程あの、これが私なりの計算といやあ計算ですけど、介護とか国保とかその、それに寄与しとるかどうか、それはまあ、その辺も勘案すべきではないかと、私は思うんですけど、これは私が計算したんではないんで、健康増進課の方で計算した、相談しもって計算した資料なんです。その辺について、どういうふうな考えを持とるか、長町なり、はい、お願いしたらと思います。まこれあの、結局4千万からこれだけで出とるんという計算になるんですから、これが国保の方へも勘案したらさらにまあこれ増えると思うし、それから、やっぱりこのまんのうのこの多いとこの、人口の多いとこその辺に特にこういうの1つ置いとくべきでないかと、そういう、ただまあ、数字的に赤字だからこうすると、そういうんでなしに、そういう国保とか介護とかそういうんに、大分寄与しとんでないかと、だきんその辺をもう1つ、これはもう健康増進の方から出とんであって、なんちゃ私が作文したんではないんであって、だきんそこらもうちょっと考える必要でないかと目に見えた数字でないじゃろうがというけど、これは健康増</p>

白川年男 議員	進の方と相談して計算した数値なんです。まだこれだからプラス国保の数字入れたらもっと増えるんでないかと、私はそんな、私がこれしたのではないんであって、相談の中でこの数値的な4千万いうんが出るとるわけなんです。私が言いよんで、ちょっと静かにしとってくれるか。だきん、それ、静かに。 (・・・町長、あんた信頼しとらんのかな、町長止めます、全部考えてやっとなることやろ・・・)
末武議長	いや、これについて答弁を町長の方からしていただきたい。
白川年男 議員	まあ、ちょっと静かにしてください。
末武議長	ほんだきん、これについて、私が作文したのではないんで、相談の中で作ったものですから。
佐野副町長	はい、副町長、佐野利昭君。 白川議員さんの再質問にお答えいたします。白川議員さんがお手元に持っております数値を基に、介護保険また国民健康保険に寄与しておると、いうふうなことでございますが、確かにそういうふうな数値を健康増進課の方で作成したということは事実と思えますけど、かりん温泉なり美霞洞温泉、塩入温泉へ入っている方と、介護保険、国民健康保険で受診をしている方の相関関係は推定はなかなか難しいと思えます。確かに数字を計算すれば、そういう数字が一人当たり介護保険にいくらかかっているというふうなことに推測はできるかも分かりませんが、利用されている方と介護保険を利用している方との相関関係は、なかなか推測は難しいと、いうふうに思えますので、数値は十分承知させていただきますけど、ただ、かりん温泉に行っている方が全て介護保険にかかっている、その人がかからないからこうだというふうな関係は、少し私は疑問符だと思いますけど、ご質問の点については、今後十分検証してみたいと思えますので、よろしく願いいたします。
末武議長	以上で、4番、白川年男君の発言は終わりました。 引き続き、一般質問の通告がありますので、これを許可いたします。
本屋敷議員	3番、本屋敷崇君。 3番、本屋敷です。議長に発言の許可をいただきましたので、通告に従い一般質問させていただきます。 今回、私の一般質問は、少子化及び過疎化対策についてです。前段から多くの議員さんから同様の質問がありまして、かぶることもあるとは思いますが、それだけに今現在、我が町においては深刻なことではないかと思えますので、再度私の方からも質問させていただきます。 今現在、日本の姿を世界から見れば、世界でトップを切る形での少子高齢化及び人口減が予想されています。これは地方にとつ

<p>本屋敷議員</p>	<p>でも大きな問題で、都市部の人口が減るということは便利な都市部の地価が下がり、不便な田舎から便利な都会へという更なるストロー現象が予測されます。まんのう町も他人事ではなく、総合計画の予想では、平成29年には約1万7千人になるとされています。後8年で、約3千人の減です。更には、少子高齢化が進み、高齢化率は39.5パーセントになると予想されています。これから、予想されることは税収減による皆保険の維持が難しくなることや現在整備されているインフラ整備の維持補修も難しくなると思われます。そうなれば税金の高い田舎から都市部へと、またまた更なるストロー現象が起こり、ますます地方自治体の維持は困難になってきます。確かに問題が大きすぎて、一地方自治体でできることは限られています。更に国の制度は、地方の現状を把握したものではないものも分かります。しかし、国の制度が変わらないから、地方が変わらなくて良い、と言うことではないように思います。現状を理解し、国が変わらないのであれば、地方から変わっていかなければ、10年後には更なる困難な状況が地方を襲うことになるかと予想されます。更に言えば、これから各地方において、人口の争奪戦が始まっていくことが予想されます。それらを考慮して、いち早く対策を取った町が人口流出を防ぎ、深刻な財政難を回避していくことが可能になっていきます。では、その対策を町長としてどう考えておられるかをお聞きしたいと思いますが、その前に私に意見として、どういった対策を行うべきかを述べさせていただきたいと思います。</p> <p>まず、今現在、まんのう町の町税、地方譲与税、各種交付金の合計が約60億円です。そして、義務的経費が37億円。ということは、単純に町単独で行える事業は、23億円程度ということになります。しかしながら、特別会計の繰出金が約10億円、さらに今後増加していくであろう維持修繕費に多額の費用を必要としてきます。となれば、借金をしないことを前提とすれば、あれもこれも事業をできるはずもなく、否応無しに選択と集中をしていくことが望まれます。その選択と集中において行う事業は、少子高齢化、過疎化を予防する事業でなければなりません。そこで、私なりにどのような施策を行えばいいかを考えてみました。</p> <p>まず、自己資源を確保するためにも、義務的経費の削減。一番は公債費の減ではありますが、人件費の減、議会も含め、執行部においても義務的経費を削減していくことの努力が必要だと思います。</p> <p>二、今後の維持経費を削減し、後の負担を軽くする。後の負担を軽くするために、学校にかかるもの以外の新規インフラ事業、ハード事業の凍結。</p> <p>三、定年後の仕事と収入の確保。農地の維持、高齢者の保険費抑制のために、都市部への産直市の整備。これは、自治体が行うよりも振興公社等が行う方が本来は望ましいとは思いますが。</p> <p>四、子育て世代に対し、子育てしやすい環境を作ることから、預かり保育の充実、もしくは子育て給付金の創設。</p> <p>五、一番の重点施策として、子どもを育てる親にとって大きな関心である教育事業への取組みに力を入れる。フィンランドメソ</p>
--------------	--

	本屋敷議員	<p>ツドの導入や自然体験を基にした都会ではできない学習スタイルの模索、英語教育等、子育てをさせるならまんのう町でと思われるような事業を行うことにより、流出を防ぎ、流入を増やしていくことが必要だと思います。</p> <p>しかしながら、これらを行うには、新規インフラ整備の凍結や高齢者厚遇から低年齢者の厚遇、各種補助の見直し等、多くの困難に立ち向かう努力が必要とされます。しかし、困難であっても今までどおりに自治体経営をしていては、未来に負担を残すことを町民に理解していただく必要があると思います。そのためには、ニセコ町の住民基本条例や智頭町の100人委員会等を設置して、今の町の現状を町民に知っていただき、その上で、上記のような施策を行うことの必要性を訴えていかなければなりません。</p> <p>また、町職員も今までと違うことを行わなければいけないことから、今まで以上に努力して計画し、実行して検証するという作業が必要になってきます。そうなった場合、現在職員数が多いときに若い職員を育てる必要性、さらに、職員数が減ったときに備えて、肥大している町政のスリム化のためのエネルギーを、今現在なら大きな痛みを伴わずに行うことができます。</p> <p>確かに4割自治で、国の制度によって大きく左右される地方自治体にとっては、難しい選択であると思われませんが、このような方策を打ち出していない限り、国が地方に柔軟な交付金を配布することもないように思われます。また、それに追随していくことは、先程述べたように、更に町の力を衰退させることに他なりません。現時点で、早いとは言えませんが、それでも1年でも2年でも早い方が今後においては有利になることは間違いありません。</p> <p>と、私の意見を述べさせていただきましたが、町長として現時点でこの少子高齢化、過疎化対策に対し、どのように考えているかをお聞かせいただきたいと思います。以上です。</p>
	末武議長 栗田長町	<p>長町、栗田隆義君。</p> <p>本屋敷議員さんの質問にお答えをいたします。</p> <p>町の今後を左右する少子化及び過疎対策についてどのように考えておられるのかという質問でございます。</p> <p>まず、少子化対策についてでございます。国は、少子化社会対策大綱において、子どもは社会の希望であり、未来の力である。次代を担う生命がたくましく育ち、自立した責任感のある大人となっていく社会への変貌は、すべてに優先されるべき時代の要請となっております。少子化社会対策基本法に基づき、国の基本施策として、この少子化社会対策大綱を定め、少子化の流れを変えるための施策を強力に推進するといたしております。また、少子化社会対策基本法、次世代育成支援対策推進法を制定し、我が国の総合的な少子化対策を行っておるところでございます。</p> <p>一方、香川県におきましても、新香川県子育て支援計画、かがわエンゼルプラン21に基づき、少子化対策を進めております。依然として少子化の進行には歯止めがかからず、より幅広い観点からの総合的な施策の展開が必要なことから、従来のエンゼルプ</p>

<p>栗田長町</p> <p>末武議長 本屋敷議員</p>	<p>ランを見直し、新たな少子化対策の総合的な計画として、香川県次世代育成支援行動計画が策定されたところでございます。</p> <p>本町におきましては、昨年3月に策定した、まんのう町総合計画の基本計画におきまして、安心と安全・快適なまちづくりの中、次世代育成の支援による少子化対策を掲げております。国の施策に呼応し、まんのう町次世代育成支援行動計画、平成17年から平成21年を策定し、子育てしやすい環境の整備を進め、少子化対策を講じてきたところでございます。実施計画におきまして、本年度中に次期の次世代育成支援行動計画を策定することといたしております。</p> <p>具体的な少子化対策として、安心して子どもを生み、育てることができる環境を整備することが必要であろうと考えます。そのため、周産期や母子に対する医療の確保や支援、育児支援、教育環境の充実、就労機会の確保や労働環境の整備等が挙げられます。少子化対策は、正しく総合計画に掲げる基本構想と同様であろうと考えます。まんのう町総合計画の各施策を町民との協働により着実に実行し、実現することが、まんのう町における総合的な少子化対策、または高齢化対策となるものと考えております。</p> <p>次に過疎化対策についてでございます。</p> <p>先程の藤田議員のご質問、過疎化対策でもお答えしたところでございますが、現下の社会経済状況におきまして、過疎化を食い止めることは、極めて困難であると考えます。団塊世代の大量退職と共に生まれ育った故郷や新たな故郷を求めての過疎地への定住、また若者が自然の中での田舎暮らしに対する憧れなど、移住施策による過疎地域への定住が期待されるものの、人口減少を直ちに止めることはできないと思われまます。</p> <p>今、急務とされる過疎化対策といたしましては、限界集落対策でもお答えしたとおり、現在、過疎地域で生活されている住民のみなさんの不安を解消し、安心して暮らせるまちづくりを実践することでありまます。</p> <p>まんのう町の自然豊かな環境は、定年退職後の人生の円熟期、充実期とも言われる次期を送るには、魅力的なところとも言えます。また、昨今の若者の就農や田舎暮らし等への関心の高まりにより、過疎への定住が進んでおりますが、まだまだ少数でございます。このような、過疎地への移住を希望する者を積極的に受け入れ、過疎地域での交流を促進することによって、自治機能を高め、地域を活性化することは、重要な過疎化対策と考えまます。</p> <p>まずは、住民、新たに定住する人々が安心して暮らせる施策こそが、過疎対策であると考えまます。過疎対策にいたしましても、まんのう町総合計画のまちづくりの基本理念、誰もが住みよい、住み続けたいまちづくりを着実に実行し、実現することが、まんのう町における総合的かつ基本的な過疎対策になるものと考えておりますので、どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>3番、本屋敷崇君。</p> <p>答弁ありがとうございます。しかしながらですね、今先程、今の町長の答弁を聞きまして、また先程来の各議員へのですね、</p>
-----------------------------------	--

<p>本屋敷議員</p>	<p>答弁を聞いていて少し危惧するものがあります。少子化問題に対してもですね、過疎化問題に対しても、計画をしている、あれもこれもしていきたいという言葉が出てくるわけです。しかし、財政状況は、先程私が言ったようにですね、何もかもができる状況ではないと、今現在、特別会計と合わせて160億円ですね、借金がある中で、これからもっともっとですね、多くのことをしていけば、借金が残っていく。そして、約8年で3千人減少するわけですね。そういった中で、この160億を誰が返していくのか。当然僕らが返していかないかんわけです。でも、そうなった場合、僕らが返せるか。返せなかった場合には、僕たちは出て行くという方法しかなくなります。しかし、残った高齢者は出て行けない。高齢者が受け入れるかと、そういう形になった場合にどうしていくのかと。やはり、今、この時代の中で、あれもかれもができる町行政ではないんだと、思うんですよ。</p> <p>そんな中で、僕が、私がですね、何を集中と選択として選びますかという質問ではあったんですけども、まあ、私の質問の仕方が悪かったので、そこは伝わってなかった部分もあるとは思うんですが、やはり、今のこの現状で何を選択していくのか。それはやはり少子高齢化、過疎化に対応した施策をしなければいけない。集中と選択とは、特色あるまちづくりだと。何もかもしていくというのは、今まで従来のまちづくりではないかと思うんです。だからこそ、今、現在首長に立たれる方は、とても厳しい判断をしていかなければいけないし、町民に対しても説明していかなければいけないから、各地ですね、住民基本条例を作ったり、智頭町のような100人委員会を作ったりですね、そういったことをしながら、集中と選択をしていってる状況にあるんだと思います。今日の一般質問を聞いた上で、町長はそこまで考えられておられるのかどうか、ちょっと私としては、危惧するものがあります。私が選ぶ集中と選択とは何なのかという部分で言えば、まんのう町はですね、どこまで行っても東京になることはありません。いくらお金を使っても、今の東京に追いつくことは無理だと思います。その中で、では、まんのう町が特色を出していくにはどうすればいいのか。どうすれば少子化を防げるのか、過疎化を防げるのかと、僕も考えていく上でですね、やはり農林業と豊かな教育環境ではないかということになりました。農林業の場合はですね、国の制度が変わらないと難しい部分があります。今現在、日本は農林業に対して手厚い補助をしておると、いうことを言われていますが、6兆円約補助している中で、農林業者に払われるものではなくてですね、農林業土木において払われるものです。と言うことは農林業者に対しては補助金というのはほとんどいってないわけですね。その中で、今現在の日本の農業が生業として生活していくのは、難しいと考えます。ですから、農業と言うのは、農林業と言うのは、もう少し、国の制度が変わることを願うしかないといえる状況ではないかと思います。では、その中で豊かな教育環境。これだけ自然に囲まれたですね、中で、香川県のこの位置に、属してですね、高松からも30分から40分、丸亀からも30分から40分、近畿からも2時間という立地条件の中でですね、豊かな自然環境の中で教育をしていくということ。私たち、僕も3人の子どもがおりますが、今の親にとっては子どもたちにどのような教育をさせていくか、というのがすごく関心</p>
--------------	--

が高いところであります。子どもの教育のために、移住を考えるとという方も少なくはありません。そういうところに、着目してはどうかと。豊かな教育環境から世界に羽ばたく子どもを作る町へ、そういった中でですね、先程言ったフィンランド教育であったり、英語教育であったりですね、そういったことに対して、選択と集中した残り少ないお金をですね、使っていくことによって、人材を育てていく。そして人材を育てていくことよって、更に人材が集まってくる。と言うような町にしなければならないのではないか。あっ、まんのう町ねと、あの子どもに投資をするまんのう町。頑張ってるよねと言われるようになればですね、多くの方が注目もしてくださり、多くの方がまんのう町に興味を持ってくれるのではないかと思います。今、4割自治の中で、何を選ぶのかという中で、私は教育を選ぶべきではないかと。今までのようにあれもこれもと、いうことをしては、どんどんどんどん、人がいなくなるのではないかと。言うことを質問の中でしたかったわけですが、今のこのことについて、町長としてどうお考えかお聞かせいただければ、ありがたいと思います。

末武議長
栗田町長

町長、栗田隆義君。

本屋敷議員さんの再質問にお答えをいたします。非常に厳しい財政事情の中で、まんのう町3町合併して、3年、4年目に入ったわけでございます。確かに借金も多く抱えておりますし、あれもこれもということになりますと、到底お金が足りません。そういうような中で、限られた予算でやはり集中と選択、優先順位をつけてやっていく、非常に重要なことであろうかと思いますし、限られた予算の中でやっていく、そして少しでも借金を減らしていくということで、私も選挙公約で実質単年度収支をまず黒字にしていこうということから始めてまいりました。何とか2年間はそのようにできておりましたが、そういうことで、借金は増えていないというように思いますが、やはり限られた予算の中で、色んな事をやっていかなければいけない。本屋敷議員さんご指摘のように、まずその中では、教育環境づくり、ま、これが一番重要でないかということでございますが、全く私も同じように思います。まんのう町の将来を担う子どもたちを育てていくための教育環境づくり、これは非常に重要なことでありますし、それが充実すれば他の市町から、また県外からも注目される町になろうかなというふうに思っておりますので、教育長共々にまんのう町の教育環境づくり、十分配慮してまた予算もつけていきたいと思っております。

また、人口減少、また過疎化対策におきまして、具体的な方法といたしましては、今定例会においても補正予算でお願いいたしました通り、本年度におきましてはふるさと雇用再生特別基金事業を活用し、美合地域での過疎化対策事業や地域振興事業を実施する協議会を設立しまして、企画運営を行う要員を確保することといたしております。具体的には、旧の琴南東小学校の再生利用計画の策定、美合文化村構想の策定、空き家情報の収集発信及び調査、棚田保全活動の実施等、総合的な過疎化対策事業の検討を行い実施しようとするものでございます。気象的条件の厳しく、維持が困難な限界集落等に関しましても、この協議会において検

<p>栗田町長</p>	<p>討を進めておきたいと、考えていきたいと考えております。また、この成果は、旧の満濃地区、旧の仲南地区において共通する課題に対する有効な施策であるものと判断されますので、積極的に活用していきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。</p>
<p>末武議長 北山教育長</p>	<p>教育長、北山正道君。 預かり保育の充実の件ですが、まんのう町は私が調べたところによりますと、おそらく県下の公教育、保育の中で一番、預かり保育は充実しておるといふふうに思っております。幼稚園もほぼ夕方6時までお預かりしてます。保育所ももう6時、ということは、ほとんどまんのう町においては、もう保育所と幼稚園は午後6時まで希望がある方はお預かりしておると、ほとんど保育所と幼稚園も境目がないぐらいな形になっております。まだ、基本構想は固まってないんですけども、将来的にはやはり国の強い指導もございまして、幼保一元化っていう形が強く言われてます。将来的に、まんのう町の幼稚園、あるいは保育所を見直すときには、一体化した形で、幼稚園と保育所がほとんど境のない形で、多様な保護者の保育に対するニーズにいつでも応じられると、そういうふうな形を考えております。現在、高松の牟礼町にある、はらこどもセンターは前回も申し上げたか分かりませんが、3歳の幼稚園の教室と3歳の保育所の教室がくっついた構造になってます。0歳、1歳、2歳の教室があって、3・4・5歳につきましては、保育所の教室と幼稚園の教室が一体化した形で、午前中は幼稚園の先生と保育所の先生がだいたい降園します、2時ぐらいまでは。ティームティーチングを組んで、チームを組んで保育にあたっておる。ほいで、2時から帰る子、2時から残って6時までみる子、そういった形で保護者の多様な要望に答える。まあ、そういった形で将来的に幼稚園、保育所の設置等を考えた折には、そういったことも考えていきたいというふうに思っております。</p>
<p>末武議長 本屋敷議員</p>	<p>本屋敷崇君。 町長からですね、子どもに投資するというのが一番の重要施策であると、同意するといような答弁をいただきまして、とてもありがたいと思います。そういったですね、重要施策を、町で言う目標ができれば、それに合わせて、町、執行部の方も予算を立ててですね、施策を立てて予算をつけていくということになっていくのだろうと思います。まあ、あれもかれもということをしていけば、全てにおいて補完していかなければいけないだけにですね、町としては何もかもしていかなければいけないから、予算も膨大になっていくし、人件費というか職員さんのですね、労力が増えていく、それが今からできないと言う中で、今から舵取りをしていく中ではですね、そういった重要施策を作っていただければと思います。そうした中で、たぶん先進地においてはですね、住民基本条例であったり、100人委員会をすることによって、町全体の同意事項としてですね、町も昔みたいにはいかなないんだよと、いう部分をしていってるんだと思います。そういった中でですね、町の方も子どもを、子どもに投資する町という目標に向かって、頑</p>

地方自治法第123条第2項の規定により署名する。

平成21年6月23日

まんのう町議会議長

まんのう町議会議員

まんのう町議会議員

--	--	--